

DENON

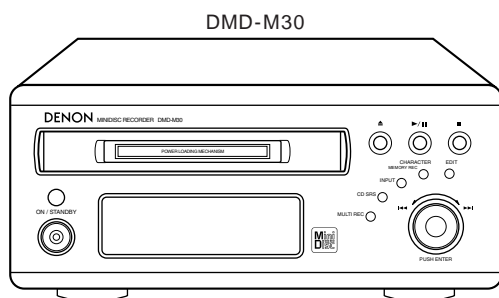
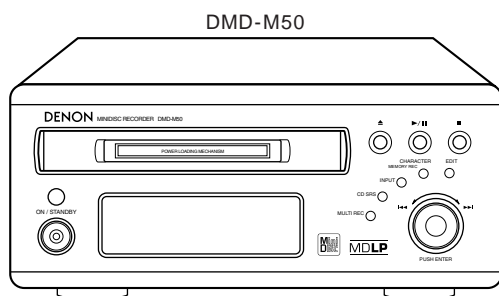
取扱説明書

DMD-M50

DMD-M30

MINIDISC RECORDER

ミニディスクレコーダー



安全にお使いいただくために—必ずお守りください。

お買い上げいただき、ありがとうございます。
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
お読みになった後は、後日お役に立つこともありますので、必ず保存してください。

目次

はじめに	1 使用上のご注意	2~6
	2 取り扱い上のご注意	7
	3 本機の特長	8
	4 付属品について	8
	5 保証とサービスについて	9
接続	6 接続のしかた	10~12
準備	7 各部の名前とはたらき	13~17
	8 リモコンについて	18~20
	9 ミニディスクについて	21、22
操作	10 通常の再生のしかた	23
	11 いろいろな再生のしかた	24~27
	12 録音のしかた	28~31
	13 いろいろな録音のしかた	32、33
	14 編集のしかた	34~47
	15 ピックレック機能について	48~50
16 システム機能について	51~57	
その他	17 ミニディスクの規格上の制約について	57
	18 メッセージについて	58
	19 故障かな?と思ったら	59
	20 主な仕様	60

DMD-M50をお使いの場合

操作	21 長時間録音 (MDLP録音) について	60、61
----	------------------------	-------

1 使用上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずよくお読みください。

絵表示について この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

[絵表示の例]



△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。



警告

安全上お守りいただきたいこと

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

煙が出ている、変なにおいがする、異常な音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、煙が出なくなるのを確認してから販売店に修理をご依頼ください。

お客様による修理は危険ですので絶対におやめください。



電源プラグをコンセントから抜け

内部に異物を入れない

ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。



使用上のご注意(つづき)

警告 つづき

安全上お守りいただきたいこと

水が入ったり、濡らしたりしないように

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。火災・感電の原因となります。



電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。

電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。



キャビネット(天板・裏ぶた)を外したり、改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、触ると感電の原因となります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。



ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。



ACアウトレットのご使用は表示供給電力内で

接続する装置の消費電力の合計が表示供給電力を超えないようにしてください。火災の原因となります。

また供給電力内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器(電熱器具・ヘアードライヤー・電磁調理器など)は接続しないでください。



雷が鳴り出したら

アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。



乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。



落としたり、キャビネットを破損した場合は

まず本体の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。



使用上のご注意 (つづき)

⚠ 警告 つづき

取り扱いについて

風呂・シャワー室では使用しない
火災・感電の原因となります。



水場での使用禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水
などが入った容器を置かない
こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。



この機器の上に小さな金属物を置かない
万一内部に異物が入った場合は、まず本体の電源を切り、電源プラグを
コンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火
災・感電の原因となります。



⚠ 注意

安全上お守りいただきたいこと

電源コードを熱器具に近付けない
コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。



電源プラグを抜くときは
電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って
抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあり
ます。



濡れた手で電源プラグを抜き差ししない
感電の原因となることがあります。



ディスク挿入口に手を入れない
特に幼いお子様にご注意ください。けがの原因となることがあります。
万一手を挟まれた場合は、すぐに本体の電源を切り、電源プラグをコン
セントから抜いて販売店にご連絡ください。



指を挟まれないように
注意

レーザー光源をのぞき込まない
レーザー光が目にあたると視力障害を起こすことがあります。



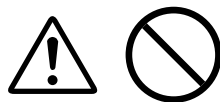
使用上のご注意 (つづき)

注意 つづき

安全上お守りいただきたいこと

電池を交換する場合は

極性表示に注意し、表示通りに正しく入れてください。間違えますと電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。指定以外の電池は使用しないでください。また新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。



機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器・スピーカーなどの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。



電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。



置き場所について

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。



次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。

調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ

湿気やほこりの多いところ

直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ



壁や他の機器から少し離して設置する

壁から少し離して据え付けてください。また放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。



使用上のご注意 (つづき)

⚠ 注意 つづき

取り扱いについて

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない
特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。



重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。



移動させる場合は

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線・機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
この機器の上にテレビなどを載せたまま移動しないでください。倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。



使わないときは

長時間の外出・旅行の場合は

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。



お手入れについて

お手入れの際は

安全のため電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。感電の原因となることがあります。



5年に一度は内部の掃除を

販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。

なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。



2 取り扱い上のご注意

結露現象について

結露とは

冬期に暖房をした部屋の窓ガラスに水滴がつくような現象をいいます。

結露が起こる条件は

冬期などに本機を戸外から暖房中の室内に持ち込んだり、部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると本機内部の動作部に露がつき、正常に動作しなくなることがあります。

結露は、夏にエアコンの風が直接当たるところでも起こることがあります。その場合には本機の設置場所を変えてください。



結露後の処置は

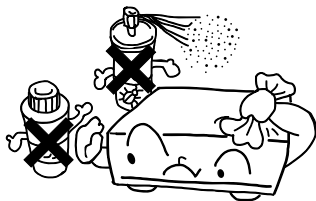
結露が起こった場合は、電源を入れてしばらく放置しておいてください。周囲の状況によって異なりますが、1～2時間で使用できるようになります。

お手入れについて

キャビネットや操作パネル部分の汚れを拭き取るときは、柔らかい布を使用して軽く拭き取ってください。

化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください。

ベンジン・シンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると変質したり変色することがありますので使用しないでください。



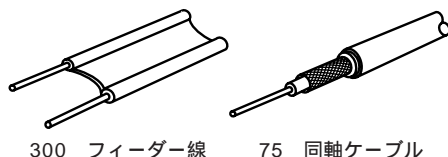
設置の際のご注意

本機やマイクロコンピューターを搭載した電子機器をテレビと同時に使用する場合、テレビの音声や映像に雑音や画面の乱れが生じることがあります。このような場合は次の点に注意してください。

本機をテレビからできるだけ離してください。

テレビのアンテナ線を電源コードおよび接続コード類から離して設置してください。

特に室内アンテナや300 フィーダー線をご使用の場合に起こりやすいので、屋外アンテナおよび75 同軸ケーブルのご使用をおすすめします。



300 フィーダー線

75 同軸ケーブル

使わないときは

ふだん使わないとき

電源を切ってください。

外出やご旅行の場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



移動させるとき

衝撃を与えないでください。



ミニディスクを取り出し、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、他のオーディオ機器との接続コード類を取り外してから移動させてください。

3 本機の特長

1. クリアな音質

デジタル記録方式の採用により、クリアな再生音が得られます。

2. あらゆるデジタルソースのデジタル録音に対応

『サンプリングレートコンバーター』の搭載により、MDやCDはもちろん、BS放送やDATなどのデジタル信号の音質を劣化させることなく、デジタル録音をおこなうことができます。

デジタル機器を2台まで接続できます。

3. 多彩な編集機能

曲を分ける、つなぐ、移動するなどの編集機能により、録音されたディスクの中身を自在に操作し、ディスク名や曲のタイトルを入力することでオリジナルのディスクを簡単につくることができます。

4. 豊富な再生機能

プログラム再生、ランダム再生、全曲リピート再生、1曲リピート再生などの操作ができます。

5. 便利なシステム機能

UD-M30/M50とシステムコードで接続して使用すると、CDシンクロ録音、オートファンクション、オートパワーオンなどの操作が簡単にできるシステム機能を装備しています。また、UD-M30/M50に付属のシステムリモコン（RC-877）では、各システムユニットの主な操作をおこなうことができます。

UD-M30：CDレシーバー（シングルCD）

UD-M50：CDレシーバー（オートチェンジャーCD）

6. MDLP（MD LONG PLAY）対応（DMD-M50のみ）

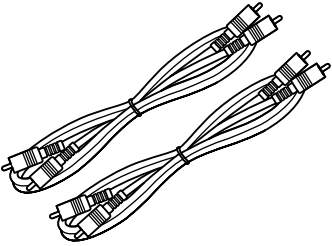
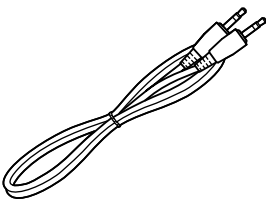
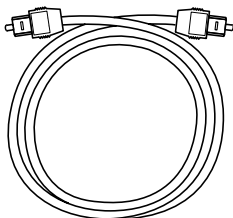
MDLPフォーマット対応により、通常録音/再生時間の2倍長または4倍長のステレオ録音/再生ができます。

ご注意

MDLPフォーマットで録音された曲は、DMD-M30などのMDLP非対応機器では正常に動作しません。

4 付属品について

本体とは別に下記の付属品が付いています。ご使用前にご確認ください。

ステレオ音声コード	2本	システムコード	1本	光接続コード	1本
					
取扱説明書（本書）	1冊	サービス網一覧表	1枚	保証書 （梱包箱に貼り付けてあります。）	

ご注意

本機にリモコンは付属しておりません。CDレシーバー（UD-M30/M50）に付属しているシステムリモコンで本機をコントロールすることができます。

本機を単体でご購入の場合は、一部リモコンで設定する機能がありますので、別売りのリモコン（RC-267）をご購入ください。

ご注意

本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので、実物とは異なる場合があります。

5 保証とサービスについて

- 1 この商品には保証書が添付されております。
保証書は所定事項をお買い上げの販売店で記入してお渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ大切に保管してください。
- 2 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
保証書の記載内容により、お買い上げの販売店または最寄りの当社営業所（コロムビアサービス網一覧表参照）が修理を申し受けます。（但し、保証期間内でも保証書が添付されない場合は、有料修理となります。）その他詳細につきましては、保証書をご覧ください。
- 3 保証期間後の修理については、お買い上げの販売店または最寄りの当社営業所にご相談ください。
修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理致します。
- 4 本機の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
- 5 保証および修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店または最寄りの当社営業所にご相談ください。
- 6 本製品の故障、誤動作または不具合により、録音や再生などの機会を逸したために発生した損害などの付随的な損害の補償については当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

ステレオ音のエチケット



楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で小さくも大きくもなります。

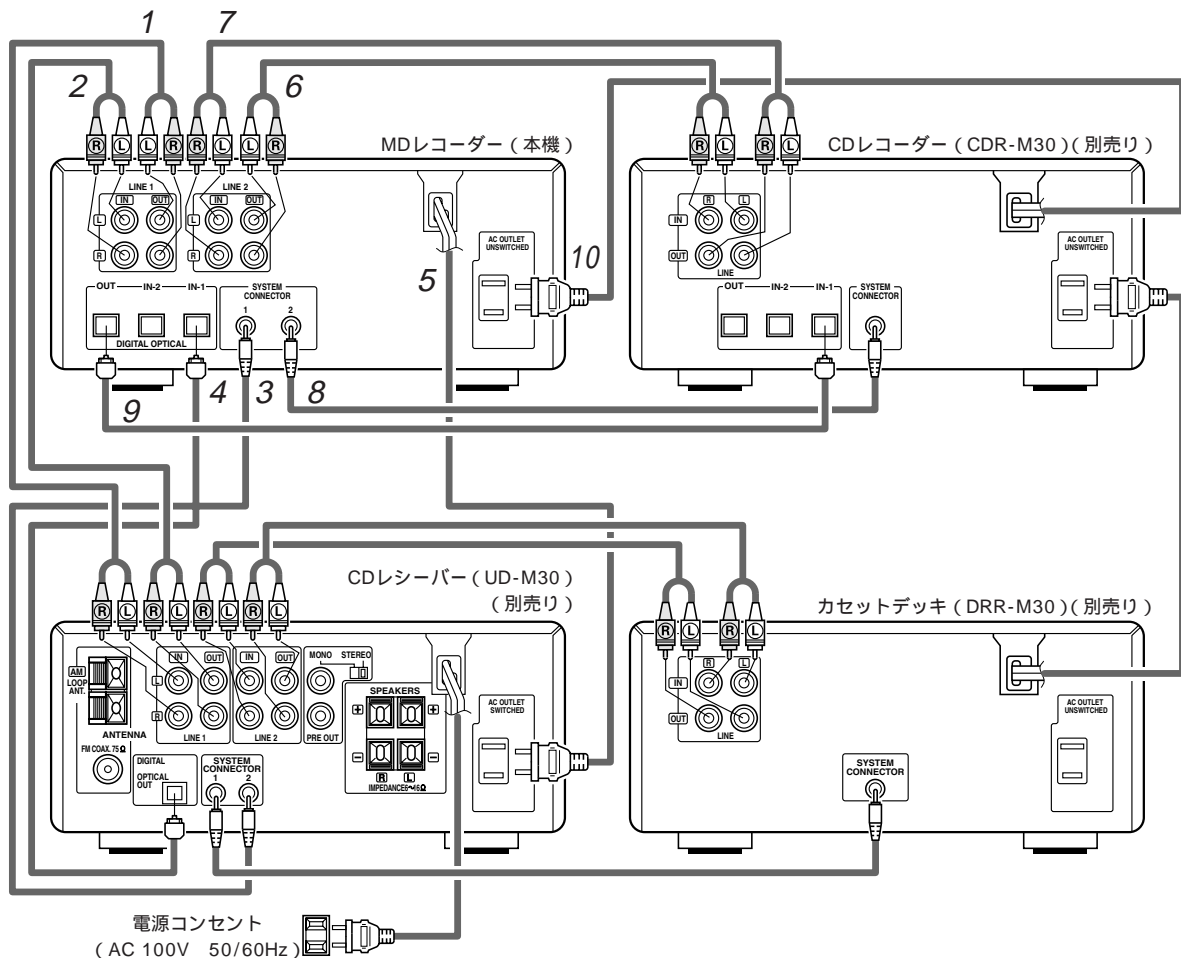
特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

6 接続のしかた

D-M30/M50シリーズ以外の外部機器（プリメインアンプ、CDプレーヤーなど）と接続しても使用することができます。この場合、3と8のシステム接続をおこなう必要はありません。但し、CDシンクロ録音などすべてのシステム機能は、はたらかなくなります。

【D-M30/M50シリーズとの接続例】

CDレシーバー（UD-M30）に本機およびCDレコーダー（CDR-M30）、カセットデッキ（DRR-M30）をシステム接続する場合



ご注意

CDレシーバーの通風孔をふさがないように配置してください。

ご注意

CDレシーバーの入出力端子は出荷状態では『LINE1』に『CD-R』、『LINE2』に『TAPE』を接続するよう設定されています。本機をCDレシーバーに接続する際は、入出力ファンクションの設定を変更してください。設定の変更のしかたはUD-M30/M50の取扱説明書を参照してください。

接続のしかた(つづき)

システム接続について

各ユニット間の、すべてのステレオ音声コードとシステムコードを接続しないと、タイマー機能やオートパワーオン機能などのシステム動作がおこなわれません。各ユニット間のすべての接続コードは確実に接続してください。

動作中にシステムコードを抜くと、誤動作の原因になりますので、必ず電源プラグをコンセントから抜いた後で接続の変更をおこなってください。

ご注意

すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないようにしてください。

左右のチャンネルを確かめてから、正しくLとL、RとRを接続してください。

電源プラグは確実に差し込んでください。不完全な接続は、雑音発生の原因になります。

接続コードと電源コードと一緒に束ねると、ハムや雑音の原因になることがあります。

一度電源プラグをコンセントから抜いた場合は、約5秒程度経ってからもう一度コンセントに差し込んでください。

【CDレシーバー(UD-M30/M50)と本機の接続】

1	本機に付属のステレオ音声コードで、本機のライン出力端子1(LINE1 OUT)と、CDレシーバーの入力端子1または2(LINE1 INまたはLINE2 IN)を接続します。
2	本機に付属のステレオ音声コードで、本機のライン入力端子1(LINE1 IN)と、CDレシーバーの出力端子1または2(LINE1 OUTまたはLINE2 OUT)を接続します。
3	本機に付属のシステムコードで、本機のシステム端子(SYSTEM CONNECTOR 1または2)と、CDレシーバーのシステム端子(SYSTEM CONNECTOR 1または2)を接続します。
4	本機またはCDレコーダーに付属の光接続コードで、本機のデジタル入力端子1(DIGITAL OPTICAL IN-1)と、CDレシーバーのデジタル出力端子(DIGITAL OPTICAL OUT)を接続します。
5	本機の電源プラグをCDレシーバーのACアウトレット(AC OUTLET)に差し込みます。

【CDレコーダー(CDR-M30)と本機の接続】

6	CDレコーダーに付属のステレオ音声コードで、本機のライン出力端子2(LINE2 OUT)と、CDレコーダーの入力端子(LINE IN)を接続します。
7	CDレコーダーに付属のステレオ音声コードで、本機のライン入力端子2(LINE2 IN)と、CDレコーダーの出力端子(LINE OUT)を接続します。
8	CDレコーダーに付属のシステムコードで、本機のシステム端子(SYSTEM CONNECTOR 1または2)と、CDレコーダーのシステム端子(SYSTEM CONNECTOR)を接続します。
9	本機またはCDレコーダーに付属の光接続コードで、本機のデジタル出力端子(DIGITAL OPTICAL OUT)とCDレコーダーのデジタル入力端子(DIGITAL OPTICAL IN-1または2)を接続します。
10	CDレコーダーの電源プラグを本機のACアウトレットに差し込みます。

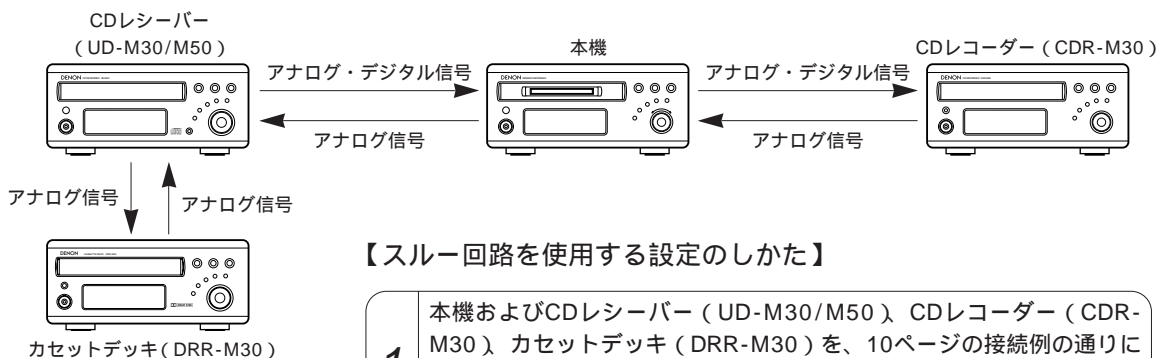
カセットデッキ(DRR-M30)との接続は、DRR-M30およびUD-M30/M50(CDレシーバー)の取扱説明書を参照してください。

接続のしかた (つづき)

スルー回路について

CDレシーバー (UD-M30/M50) に本機およびCDレコーダー (CDR-M30)、カセットデッキ (DRR-M30) をシステム接続した場合、CDレシーバーとCDレコーダー間での信号の入出力を、本機を介しておこなうことができます。(スルー回路)

10ページの接続例のように、CDレシーバー (UD-M30/M50) に本機およびCDレコーダー (CDR-M30)、カセットデッキ (DRR-M30) をシステム接続して使用する場合は、本機のスルー回路を使用する設定をおこなってください。



【スルー回路を使用する設定のしかた】

- 1 本機およびCDレシーバー (UD-M30/M50)、CDレコーダー (CDR-M30)、カセットデッキ (DRR-M30) を、10ページの接続例の通りに接続します。
接続例と異なった接続をおこなった場合、スルー回路は使用できません。
- 2 CDレシーバー (UD-M30/M50) の入出力ファンクションを次のように設定します。
(ディスプレイ表示)
LINE1 : CD-R/MD L1 CD-R/MD
LINE2 : TAPE L2 TAPE
CDレシーバーの入出力ファンクションの設定は、CDレシーバー (UD-M30) の取扱説明書の「入出力ファンクションの設定のしかた」(26ページ)を参照してください。
CDレシーバーのLINE2にDRR-M30 (カセットデッキ) 以外の外部機器を接続する場合は、LINE2の入出力ファンクションを『AUX』に設定してください。

上記の設定をおこなった後、CDレシーバーとCDレコーダー間の信号の入出力は、次のようになります。

アナログ信号



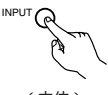
本機が停止中またはスタンバイ状態のとき、信号は本機を通過してCDレシーバーとCDレコーダーの間で入出力されます。

本機が一時停止状態のとき、信号は本機を通過しません。

デジタル信号

本機の入力モードを『デジタルスルー』に設定することにより、CDレシーバーの信号が本機を通過して、CDレコーダーに入力されます。

【デジタルスルーの設定のしかた】

- 1 電源を入れます。
ON / STANDBY  (本体)  (リモコン) SYSTEM POWER
- 2 入力切り替えボタンを押して、デジタルスルーモードを選びます。
“Opt-1: THROUGH” が表示され、“OPT”表示が点灯します。
 (本体) INPUT

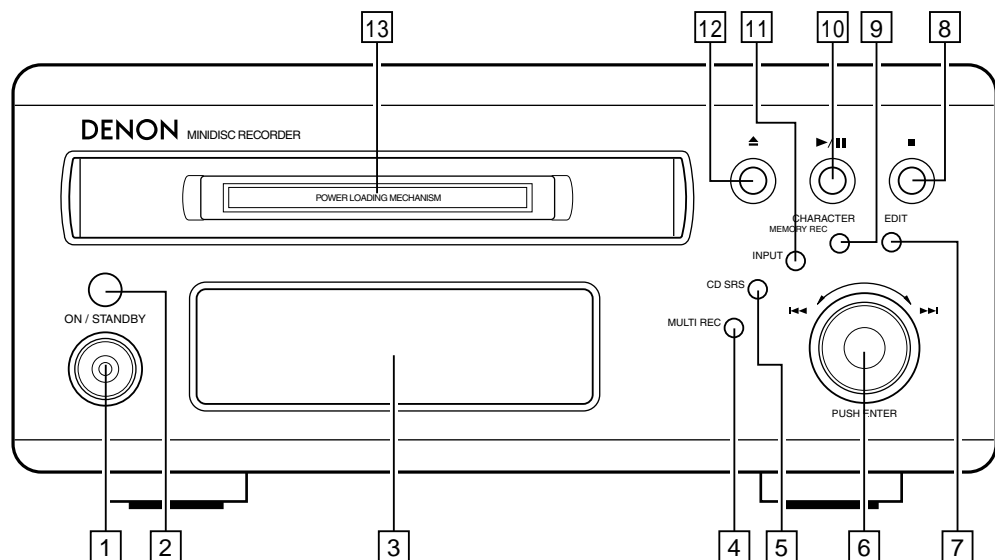
ご注意

スルー回路中、本機を録音状態に切り替えると音が途切れます。

CDレシーバーからCDレコーダーにシンクロ録音中、本機を再生させるとCDレコーダーには本機の音が録音されます。

7 各部の名前とはたらき

(1) フロントパネル



1 電源ボタン (ON/STANDBY)

押すと電源が入り、もう一度押すと電源がスタンバイ状態になります。

インジケーターの色は、状態によって次のように変わります。

電源ON時 : 緑色

スタンバイ時 : 赤色

編集をおこなった後に押すと、TOCの書き込みがおこなわれます。

2 リモコン受光部

別売りのリモコン (RC-267) をこの受光部に向けて操作してください。

本機をUD-M30/M50とシステム接続しているときは、UD-M30/M50に付属のリモコンをUD-M30/M50のリモコン受光部に向けて操作してください。

3 ディスプレイ

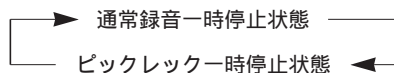
17ページを参照してください。

4 録音ボタン (MULTI REC)

録音するときに押します。

(28~30、48ページ参照)

このボタンを押すたびに、録音モードが次のように切り替わります。



各録音一時停止状態のときに、プレイ/ポーズボタン (▶/||) を押すと録音をはじめます。

5 CDシンクロ録音ボタン (CD SRS)

UD-M30/M50とシステム接続をしているとき、ワンタッチでCDの録音をおこなうときに押します。(52ページ参照)

6 ジョグダイヤル/エンターボタン

(◀◀▶▶/PUSH ENTER)

曲の頭出しや編集操作をおこなうときに使用します。

タイトルを入力するときは、入力する文字を選択できます。

録音一時停止状態のとき、または録音中に回すと入力信号の録音レベル (音量) を選択できます。(28~30ページ参照)

編集操作を確定するときに押します。(エンターボタン)

7 エディットボタン (EDIT)

ディスク名や曲名のタイトル入力、曲の消去/分割/結合/移動の編集操作をおこなうとき、またはタイトル入力を確定するときに押します。

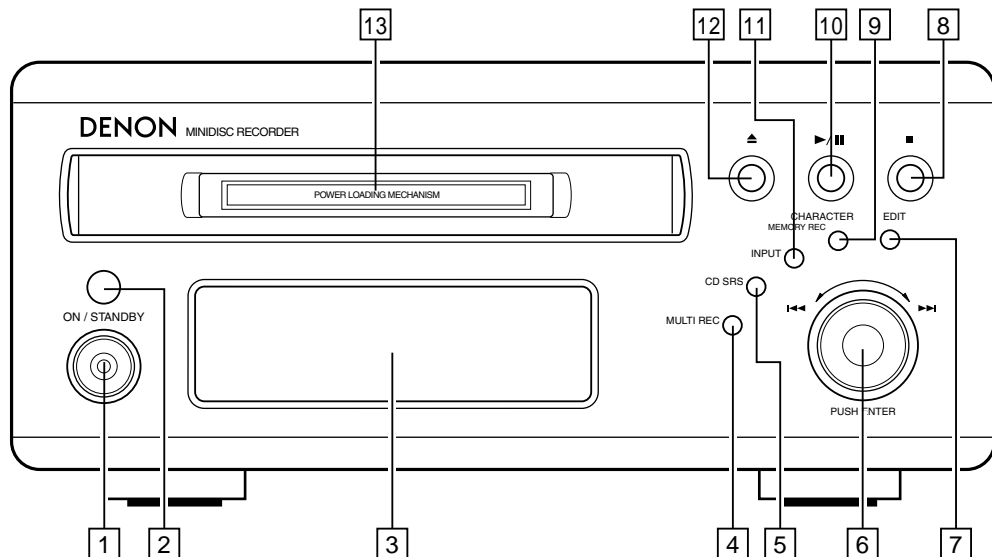
長時間録音 (MDLP録音) をおこなう場合のモードを設定するときに押します。(DMD-M50のみ)

8 ストップボタン (■)

再生または録音を停止するとき、および編集操作を取り消すときに押します。

録音または編集をおこなった後に押すと、TOCの書き込みがおこなわれます。

各部の名前とはたらき (つづき)



9 キャラクター/メモリー録音ボタン (CHARACTER/MEMORY REC)

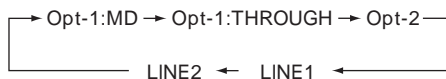
タイトルを入力するときに、英字の大文字/小文字、特殊文字またはカタカナ文字に切り替えるときに押します。(キャラクターボタン)
録音一時停止状態のとき、このボタンを押すと、メモリー録音をおこないます。(メモリー録音ボタン)(33ページ参照)

10 プレイ/ポーズボタン (▶/||)

ディスクの再生または録音をはじめるときに押します。
再生中または録音中に押すと一時停止します。

11 入力切り替えボタン (INPUT)

入力ソースを切り替えるときに押します。
(28、30ページ参照)
このボタンを押すたびに、入力モードが次のように切り替わります。



録音中は切り替えられません。録音一時停止中または停止中に切り替えてください。

12 イジェクトボタン (▲)

ディスクを取り出すときに押します。
編集をおこなった場合には、ディスクを取り出すときと同時にTOCの書き込みがおこなわれます。

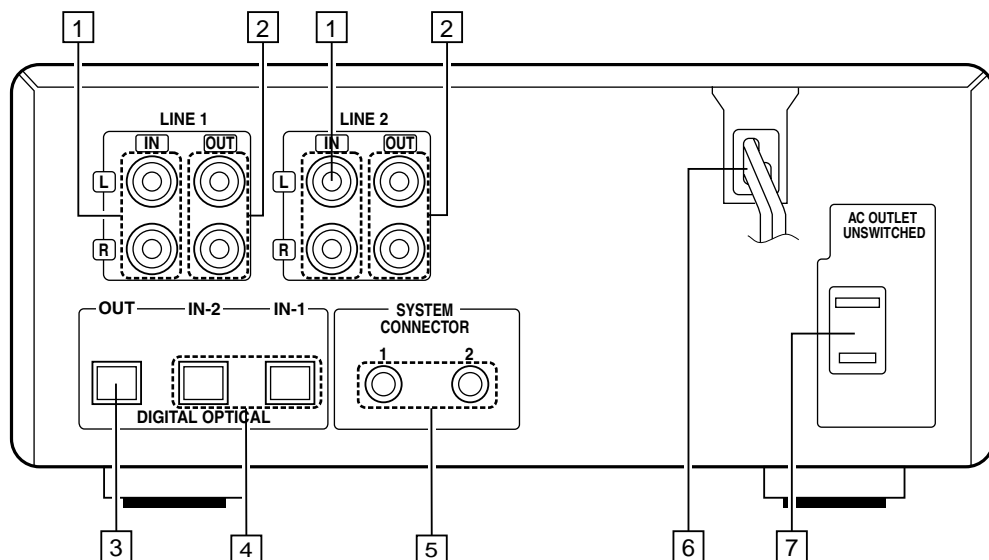
13 ディスク挿入口

ディスクを差し込むと自動的に引き込みます。
ディスクは正しい方向に差し込んでください。

ディスクを取り出すときのご注意
イジェクトボタン(▲)を押した後、ディスクが出てくる途中でディスクを押し戻さないでください。再びディスクを装填するときは、出てくるディスクの動きが止まってから押し込んでください。

各部の名前とはたらき (つづき)

(2) リアパネル



① 入力端子 (LINE1,2 IN)

外部機器の出力端子に接続します。
D-M30/M50シリーズと組み合わせて使用する
ときは、次のように接続してください。

(10ページ参照)

LINE1: CDレシーバー (UD-M30/M50) の
LINE1 (または2) OUT に接続します。
LINE2: CDレコーダー (CDR-M30) のLINE
OUT に接続します。

② 出力端子 (LINE1,2 OUT)

外部機器の入力端子に接続します。
D-M30/M50シリーズと組み合わせて使用する
ときは、次のように接続してください。

(10ページ参照)

LINE1: CDレシーバー (UD-M30/M50) の
LINE1 (または2) IN に接続します。
LINE2: CDレコーダー (CDR-M30) のLINE
IN に接続します。

③ デジタル出力端子

(DIGITAL OPTICAL OUT)

デジタルデータを光で出力します。
市販のデジタルプロセッサーまたはD/Aユニット
など外部機器のデジタル入力端子 (OPTICAL IN)
に接続します。

D-M30/M50シリーズと組み合わせて使用する
ときは、CDレコーダー (CDR-M30) のデジタル入
力端子 (DIGITAL OPTICAL IN 1または2) に接
続してください。(10ページ参照)

デジタル入出力端子への接続は、付属の光接続
コードまたは市販のデジタルオーディオ機器用
の角型光接続コードをご使用ください。

④ デジタル入力端子

(DIGITAL OPTICAL IN 1,2)

デジタルデータを光で入力します。

CDプレーヤー、BS放送チューナー、CS放送チ
ューナー、DATデッキまたは本機以外のMDレコ
ーダーなどのデジタル出力端子 (OPTICAL OUT)
に接続すると、これらの機器の音声をデジタル
録音することができます。この場合、入力切り
替えボタン (INPUT) で『Opt-1』または『Opt-
2』に切り替えてください。

D-M30/M50シリーズと組み合わせて使用する
ときは、次のように接続してください。

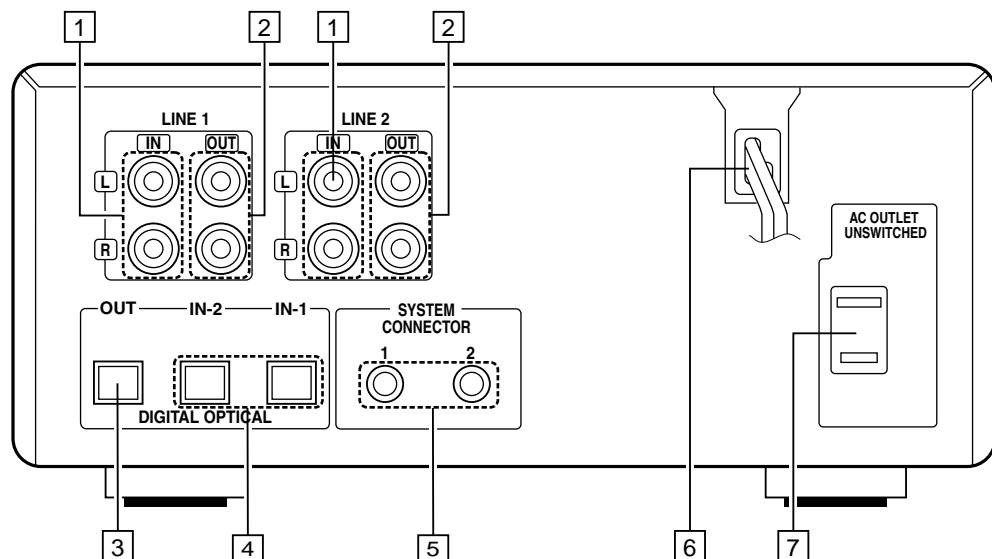
(10ページ参照)

IN-1: CDレシーバー (UD-M30/M50) のデジ
タル出力端子 (DIGITAL OPTICAL
OUT) に接続します。

⑤ システム端子 (SYSTEM CONNECTOR 1,2)

D-M30シリーズのCDレシーバー (UD-
M30/M50)、CDレコーダー (CDR-M30)、ま
たはカセットデッキ (DRR-M30) を組み合わ
せて使用するときに、付属のシステムコードで
接続します。

各部の名前とはたらき (つづき)



6 電源コード

壁の電源コンセントなどに差し込んでください。D-M30/M50シリーズと組み合わせて使用するときは、CDレシーバー（UD-M30/M50）、CDレコーダー（CDR-M30）、またはカセットデッキ（DRR-M30）のACアウトレット（AC OUTLET）に接続してください。

7 ACアウトレット（AC OUTLET）

D-M30/M50シリーズ専用です。CDレコーダー（CDR-M30）、カセットデッキ（DRR-M30）またはCDレシーバー（UD-M30/M50）を接続してください。

電源ボタンのON/STANDBYとは連動しません。

ご注意

電源プラグをコンセントから抜いたときでも、録音された目次情報（TOC）を記憶するために、本機ではバックアップ機能が自動的にはたらきます。このバックアップ期間は2、3日となっていますので、録音後はすぐにディスクを取り出すか、電源ボタンを押して、電源をスタンバイ状態にしてください。（TOCが書き込まれます。）

編集された目次情報（TOC）についてはバックアップ機能がはたらきませんので、編集終了後は次の操作をおこなってください。

1. ストップボタン（■）を押してTOCを記録させる。
2. ディスクを取り出す。
3. 電源ボタンを押して電源をスタンバイ状態にする。

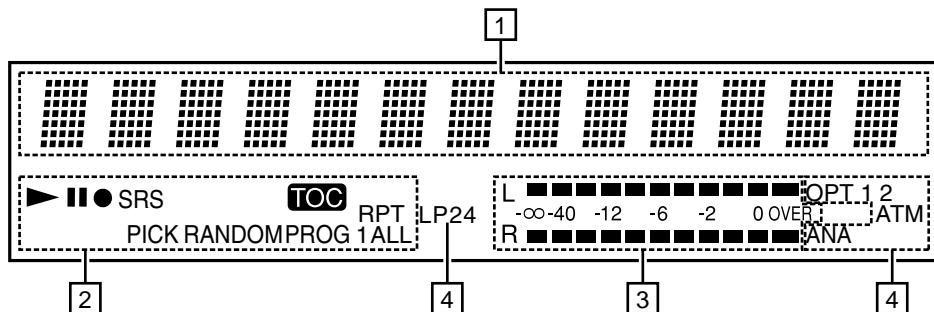
TOCの書き込みがおこなわれずにバックアップが切れた場合は、録音や編集された内容が消去され、回復できません。（21ページ参照）

ご注意

接続する機器の消費電力は60Wです。
それ以上の機器は接続しないでください。

各部の名前とはたらき (つづき)

(3) ディスプレイ



① マルチ表示部

曲数、曲番、再生時間、タイトル、各種動作内容、メッセージなどが表示されます。

② 各種モード表示部

各種モードの状態を表示します。

▶ : 再生中に点灯します。また、再生中のマニュアルサーチ時には点滅します。

|| : 一時停止中に点灯します。また、一時停止中のマニュアルサーチ時には点滅します。

● : 録音中、または録音一時停止中に点灯します。

SRS : CDシンクロ録音中に点灯します。

TOC :

録音、消去およびタイトル入力などの編集操作がおこなわれ、ミニディスクの内容が変更されているときに点灯します。

PICK : ピックレック中に点灯します。

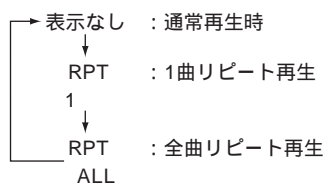
RANDOM : ランダム再生のときに点灯します。

PROG : プログラム選曲およびプログラム再生のときに点灯します。

RPT : リpeatボタンを押すたびに、次のように点灯します。



(リモコン)



③ レベルメーター表示部

再生のときは再生レベル、録音のときは録音レベルが表示されます。

④ 各種モード表示部

各種モードの状態を表示します。

OPT1 :

デジタル入力1 (DIGITAL OPTICAL IN-1) を選択しているときに点灯します。

OPT2 :

デジタル入力2 (DIGITAL OPTICAL IN-2) を選択しているときに点灯します。

OPT :

デジタルスルーモードのとき点灯します。

録音動作中に点滅したときは、正常に録音できません。デジタル入力端子の接続を確認してください。

ANA1 :

アナログ入力1 (LINE1 IN) を選択しているときに点灯します。

ANA2 :

アナログ入力2 (LINE2 IN) を選択しているときに点灯します。

ATM :

アナログ録音時、ATM onに設定されているときに点灯します。デジタル録音時に点灯します。

LP2 :

MDLP録音でLP2録音モード (録音時間が通常の2倍) を選択しているときに点灯します。(DMD-M50のみ)

LP4 :

MDLP録音でLP4録音モード (録音時間が通常の4倍) を選択しているときに点灯します。(DMD-M50のみ)

8 リモコンについて

本機がCDレシーバー（UD-M30/M50）とシステム接続されているとき、UD-M30/M50に付属のシステムリモコン（RC-877）を使用して、離れたところから本機をコントロールすることができます。

詳しくはUD-M30/M50の取扱説明書を参照してください。

本機を単体でご購入の場合は、別売のリモコン（RC-267）をご購入ください。（19、20ページ参照）

(1) システムリモコンボタンの名前とはたらき (RC-877 : UD-M30/M50に付属)

UD-M30/M50に付属のシステムリモコンのMD関連ボタンについて説明します。他のモデルとの共用ボタン（）は、オートファンクション機能に連動してMDのコントロールボタンとして機能します。

特に説明のないボタンは、本体と同じ動きをします。（13、14ページ参照）

ボタンは、MD専用ボタンです。

ご注意

本機を単体にてご使用の場合は、CDレシーバー（UD-M30/M50）に付属のシステムリモコンで本機を操作することはできません。

タイトル/キャラクターボタン (TITLE/CHARACTER)

時間表示をテキスト表示に切り替えるときに押します。（時間表示に戻す場合は、タイムボタン(TIME)を押してください。）
入力するテキストのキャラクターを変更するときに押します。

タイムボタン (TIME)

再生中の曲の残り時間表示、または録音中に録音可能時間表示に切り替えるときに押します。

電源ボタン (SYSTEM POWER)

システム電源のON/STANDBYを切り替えます。（本機単独での電源ON/STANDBYはできません。）

マニュアルサーチ・リバーズボタン (◀◀)

早戻しするときに押します。（25ページ参照）

エディットボタン (EDIT)

ランダムボタン (RANDOM)

ランダム再生をおこなうときに押します。（26ページ参照）

マニュアルサーチ・フォワードボタン (▶▶)

早送りするときに押します。（25ページ参照）

リピートボタン (REPEAT)

リピート再生をおこなうときに押します。（27ページ参照）

エンターボタン (ENTER)

編集操作を確定するときに押します。

オートマチックサーチ・リバーズボタン (◀◀)

曲の頭出しをするときに押します。（24ページ参照）

オートマチックサーチ・フォワードボタン (▶▶)

曲の頭出しをするときに押します。（24ページ参照）

プログラム/ダイレクトボタン (PROG/DIRECT)

プログラム再生とダイレクト再生を切り替えるときに押します。（電源ON時、ダイレクト再生モードに初期設定されます。）

ストップボタン (■)

テンキーボタン (1~10、+10)

ダイレクト選曲およびプログラム選曲をおこなうときに押します。

プレイ/ポーズボタン (▶/||)

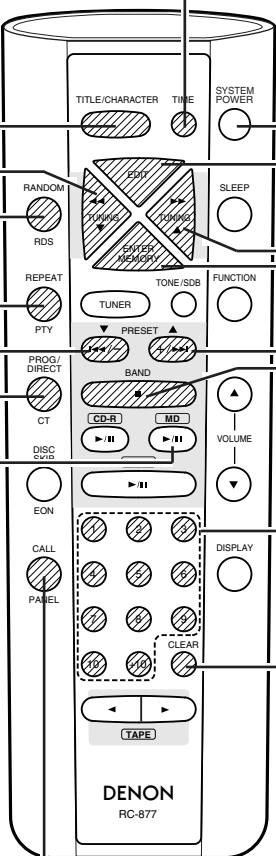
MDディスクの再生、または録音をはじめるときに押します。再生中または録音中に押すと一時停止します。

クリアーボタン (CLEAR)

プログラムされた曲や入力中のタイトル文字を取り消すときに押します。

コールボタン (CALL)

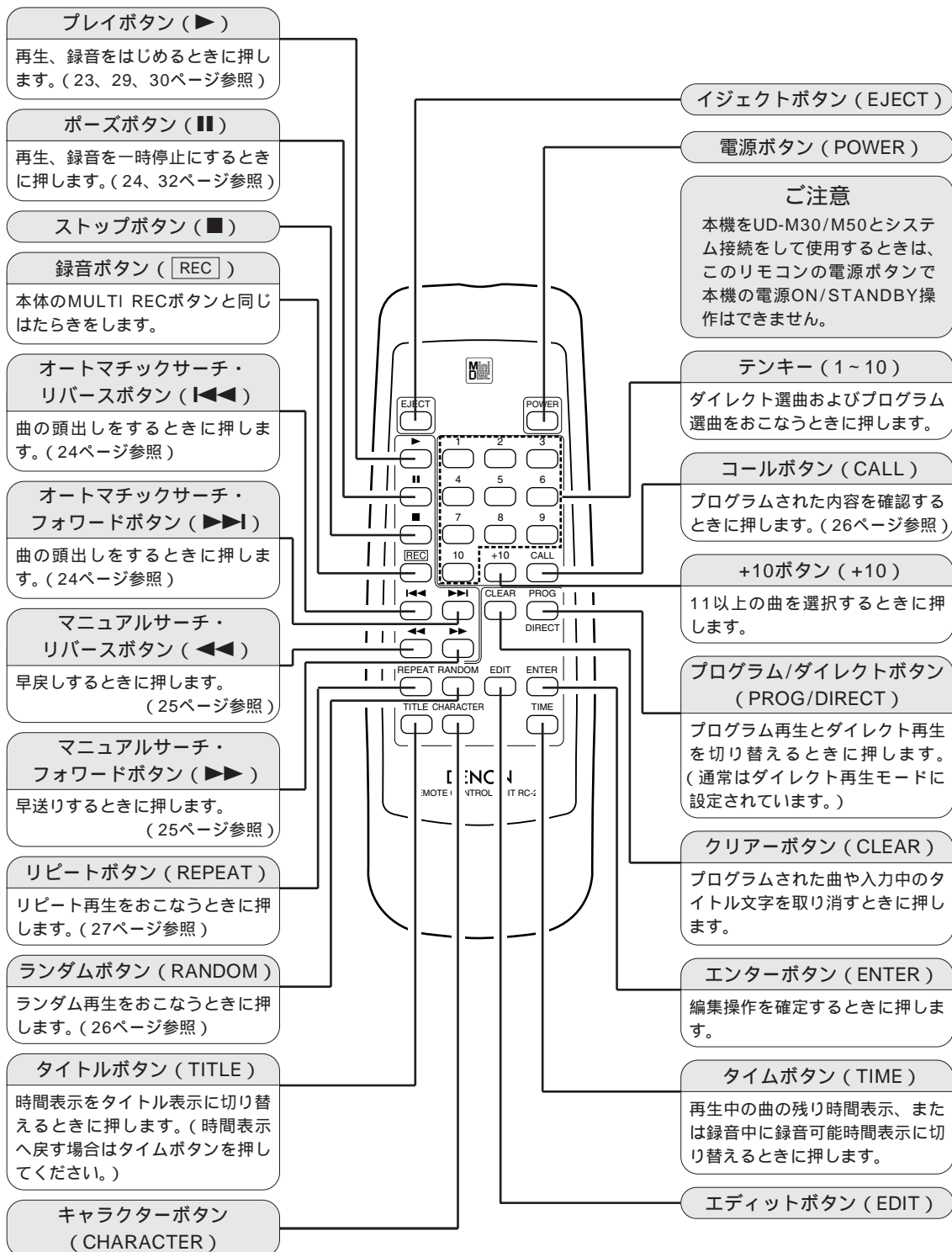
プログラムされた内容を確認するときに押します。



リモコンについて(つづき)

(2) リモコンボタンの名前とはたらき (RC-267 : 別売)

本機を単体でご購入、ご使用の場合は、本リモコンを使用してください。
特に説明のないボタンは、本体と同じはたらきをします。

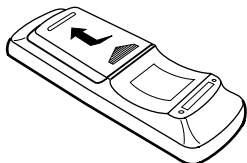


リモコンについて(つづき)

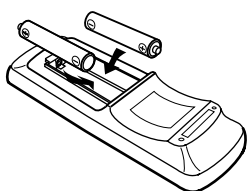
(3) 乾電池の入れかた (RC-267 : 別売)

UD-M30/M50に付属のシステムリモコンを使用する場合は、UD-M30/M50の取扱説明書を参照してください。

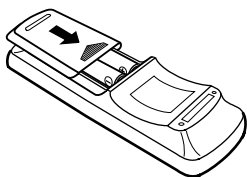
リモコンの裏ぶたを外してください。



単3形乾電池(2本)をそれぞれ乾電池収納部の表示通りに入れてください。



裏ぶたを元通りにしてください。



ご注意

リモコンには単3形乾電池をご使用ください。リモコンの使用回数にもよりますが、乾電池は約1年毎に新しいものと交換してください。1年経っていても、リモコンを本機の近くで操作して本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。

付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。

新しい乾電池と交換するときはリモコンに使用している乾電池を取り出し、約2分間経過してから新しい乾電池を入れてください。

乾電池を入れるときは、リモコンの乾電池収納部の表示通りに⊕側・⊖側を合わせて正しく入れてください。

破損、液漏れの恐れがありますので、

- ・新しい乾電池と使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。

- ・違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。

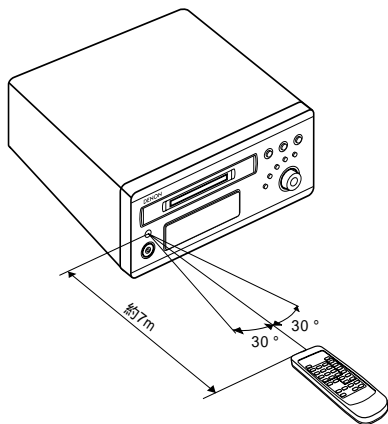
- ・乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入したりしないでください。

リモコンを長時間使用しないときは、乾電池を取り出してください。

万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。

(4) リモコンの使いかた (RC-267 : 別売)

UD-M30/M50に付属のシステムリモコンを使用する場合は、UD-M30/M50の取扱説明書を参照してください。



リモコンは、図のようにリモコン受光部に向けて使用してください。

直線距離で約7m離れたところまで使用できますが、障害物があったり、リモコン受光部に向いていないと受信距離は短くなります。

リモコン受光部を基準にして左右30°までの範囲で操作できます。

ご注意

リモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっていたり、リモコン受光部との間に障害物があるとリモコンが動作しにくくなります。本体とリモコンの操作ボタンを同時に押さないでください。誤動作の原因になります。

9 ミニディスクについて

ミニディスクはコンパクトなサイズで、通常モード時で最大80分、MDLPモード（長時間モード）時で最大320分（DMD-M50のみ）の再生/録音ができます。

ミニディスクには、再生専用ミニディスクと録音用ミニディスクがあります。

本機で再生/録音できるミニディスクは右のマークがついているものです。

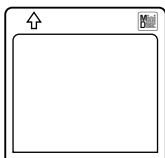


再生専用ミニディスク

再生のみが可能なミニディスクで、市販のミュージックMDソフトはこのタイプです。

再生専用ミニディスクはコンパクトディスク（CD）と同じ光ディスクです。

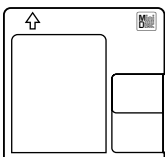
曲の編集などはおこなえません。



録音用ミニディスク

再生/録音が可能なミニディスクで光磁気ディスクを使用しており、磁界変調方式で録音をおこないます。

書き替えも可能です。



取り扱いについて

ミニディスクはカートリッジの中にディスクが収納されているため、汚れや傷を気にせず手軽に取り扱えるようになっています。しかしカートリッジの汚れやソリなどが誤動作の原因になることもあります。次のことに注意してください。

ディスク面に直接触れないでください。

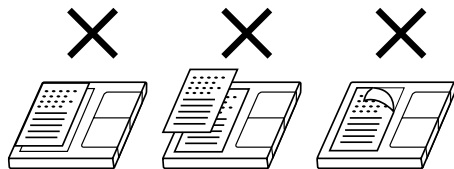
シャッターを手で開けないでください。

ホコリやチリ、湿気の多いところには置かないでください。

直射日光が当たるところなど温度の高いところには置かないでください。

カートリッジにラベルを貼り付けるときは、必ず次のことをお守りください。

正しく貼り付けないと、ミニディスクが内部にしまって取り出せなくなることがあります。



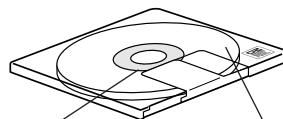
ラベルは指定の場所（エリア内）に正しく貼ってください。（指定エリア以外には貼り付けしないでください。）

ラベルを重ねて貼り付けしないでください。

ラベルがめくれたり、浮いたりしているときは、新しいラベルに貼り替えて使用してください。

ミニディスクの書き込みについて

ミニディスクには曲や音声を録音する部分と、曲番や曲名などの情報を記録する部分があります。



曲番や曲名などを記録する部分（TOC）

曲や音声を録音する部分

トック
TOCとは

ミニディスクには曲や音声とともに曲番、曲名や録音場所など曲を認識するための目次情報（TOC：Table of Contents）が記録されます。再生するときはこのTOCを手がかりにします。また、曲の編集はTOCを書き替えることによっておこなわれます。

TOCは次のときに記録されます。

- ・録音を停止したとき
- ・MDを取り出したとき
- ・電源ボタンを押してスタンバイ状態にしたとき
- ・停止状態でストップボタン（■）を押し、TOC書き込み動作をおこなったとき

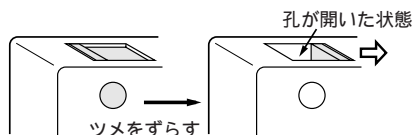
書き込みをはじめると“**TOC**”表示が点滅します。このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。TOCが正しく書き込まれずに録音や編集した内容が損なわれたり、正しく記録されないことがあります。

誤録音/誤消去防止ツメについて

録音用ミニディスクには誤録音や誤消去を防止するためのツメがついています。

録音した内容を誤って消さないために、誤録音/誤消去防止ツメをずらして孔を開けた状態にしてください。（下図参照）この状態にすることで録音や消去などの編集ができなくなり、録音内容を保護することができます。

再び録音や消去などの編集をおこなう場合は、ツメを元に戻して孔を閉じてください。（下図参照）



お手入れについて

カートリッジの汚れやホコリなどは無理な力を加えないで乾いた布で拭き取ってください。

ミニディスクについて (つづき)

曲番について

ミニディスクに曲や音声を録音すると、自動的に曲番がつけられます。追加録音したときは順に曲番が上がります。

デジタル入力でCDやミニディスクを録音したとき

CDやミニディスクについている曲番と同じところに、1曲ごとの曲番が自動的につきます。

CDからミニディスクに録音したとき、CDの曲番と録音されたミニディスクの曲番が一致しないことがあります。

BS/CSチューナー、DATデッキなどのデジタル機器ではこの機能ははたらきません。アナログ入力で録音したときと同様にオートトラックマーク機能がはたらき、曲番を付けます。

BS/CSチューナー、DATなどをデジタル接続で録音するとき、

- ・曲間の無音部分の雑音が大きいときには、曲番が正しく記録できないことがあります。
- ・また、曲中の信号レベルが極めて低いときに、曲番を記録することがあります。

このようなときは、録音が終わった後で編集操作をおこなってください。

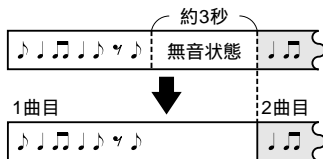
DATデッキやBS放送をデジタル入力で録音するとき、録音中にDATデッキやBS放送のモード（サンプリング周波数）が切り替わると、曲番が変わります。また、まれに雑音も録音されることもあります。このようなときは、録音が終わった後で編集操作をおこなってください。（38、39ページ参照）



アナログ入力でCDやミニディスクを録音したとき

入力切り替えで『LINE 1 (または2)』を選択すると“LINE1(LINE2) ATM On”が表示され、“ATM”表示が点灯します。“ATM”表示が点灯の場合には、3秒以上の無音部分を曲間として、曲番が自動的につきます。（オートトラックマーク機能）

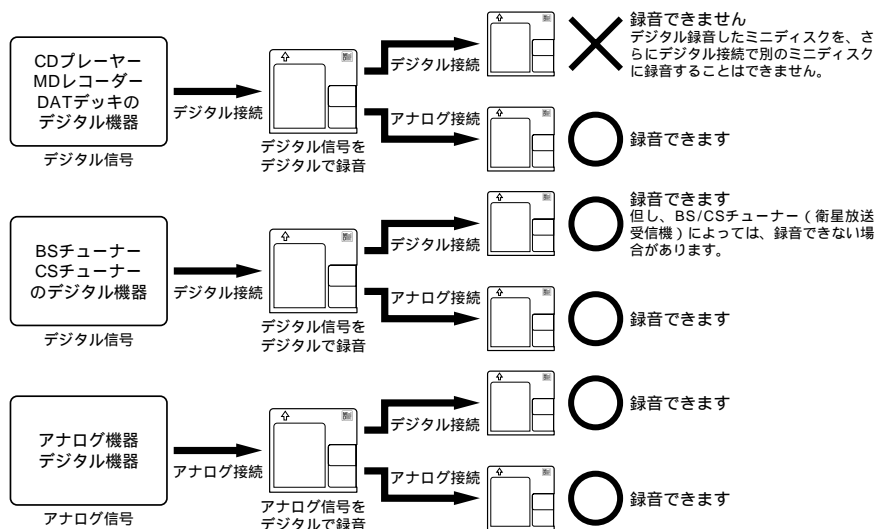
ATMを切り替える場合には、29ページの「オートトラックマーク(ATM)の設定」を参照してください。



信号に雑音があるときなど録音する内容によっては、正しい位置に曲番がつかないこともあります。

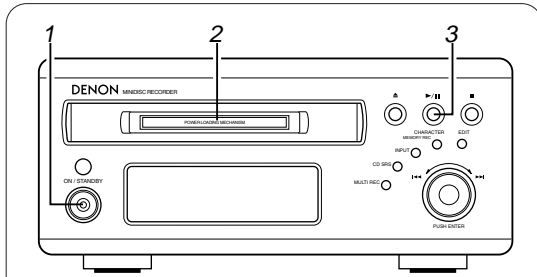
デジタルコピーについて

デジタル入力でCDなどを録音したミニディスクを、さらに別のミニディスクやDATなどにデジタル録音（コピー）することはできません。これは、SCMS（シリアルコピーマネージメントシステム）により定められた規格です。



10 通常の再生のしかた

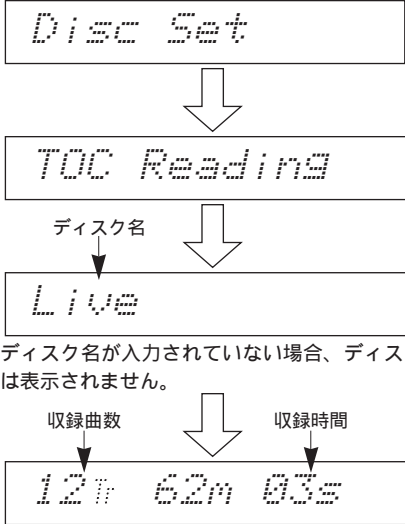
(1) 再生のはじめかた




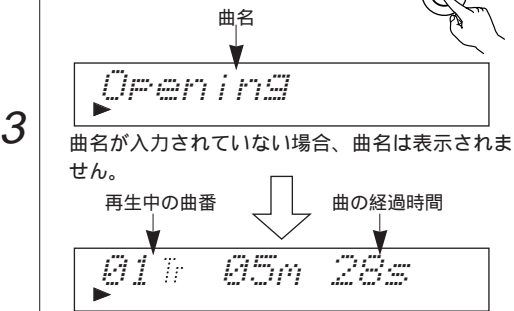
1 電源を入れます。 ON / STANDBY



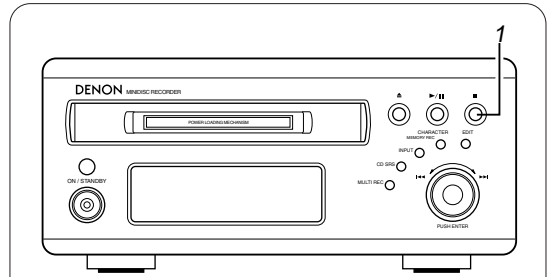
2 再生用のディスクを入れます。
ディスクを入れるときは、ディスク上面の矢印の向きに従ってディスク挿入口に差し込んでください。ディスクは自動的に引き込まれます。




3 プレイ/ポーズボタンを押します。 ▶|| 再生をはじめます。

(2) 再生の止めかた



1 再生中にストップボタンを押します。再生が停止します。



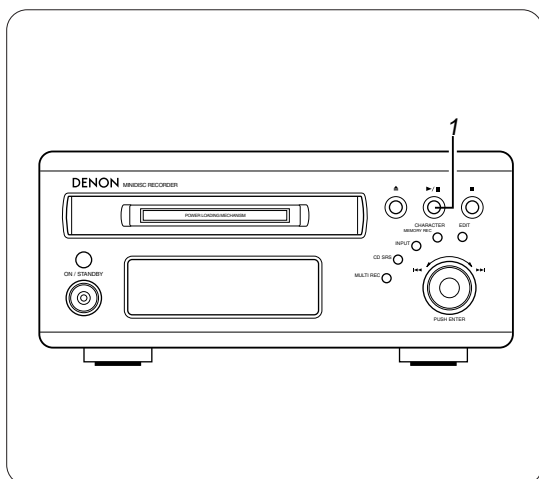
また、ディスクに収録されている最終曲の再生が終わると、自動的に停止します。

11 いろいろな再生のしかた

(1)再生途中で一時的に止めておくとき

『ポーズ』

再生の途中で一時再生を止め、再びその位置から聞くことができます。



再生中にプレイ/ポーズボタンを押します。

再生が一時停止します。
一時停止中にもう1度プレイ/ポーズボタンを押すと再生をはじめます。



1

再生中にプレイ/ポーズボタンを押す。
一時停止します。

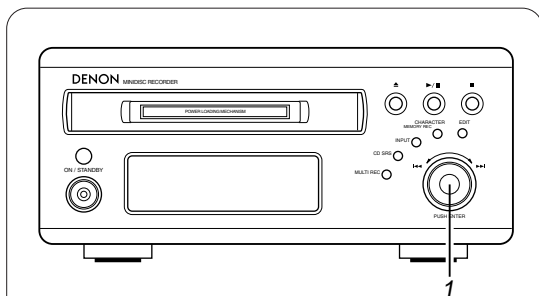


一時停止中にプレイ/ポーズボタンを押す。
再生をはじめます。

(2)再生途中で曲の頭出しをするとき

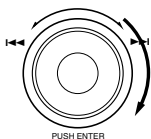
『オートマチックサーチ』

1 次の曲の頭出し



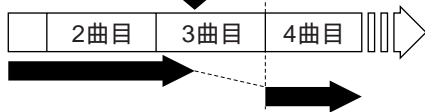
ジョグダイヤルを右(Ω)に回します。

さらにジョグダイヤルを右(Ω)に回すと、次々と後ろの曲の頭出しをおこなうことができます。

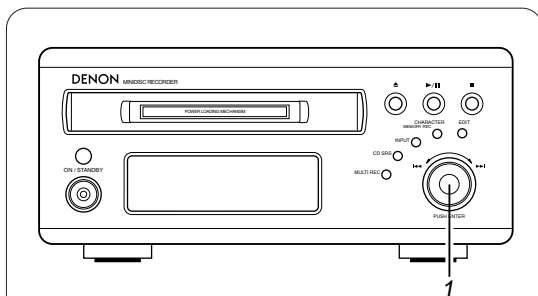


1

ジョグダイヤルを右(Ω)に回す。

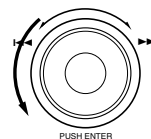


2 聞いている曲の頭出し



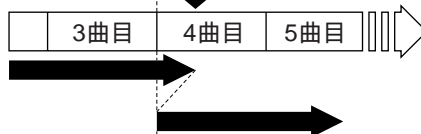
ジョグダイヤルを左(Ω)に回します。

さらにジョグダイヤルを左(Ω)に回すと、次々と前の曲の頭出しをおこなうことができます。



1

ジョグダイヤルを左(Ω)に回す。



いろいろな再生のしかた(つづき)

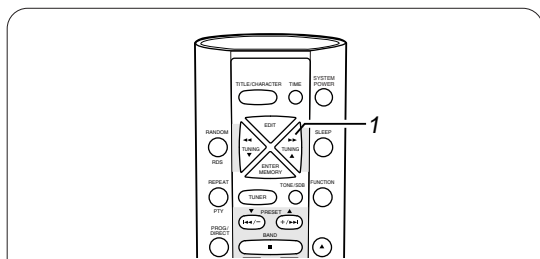
CDレシーバー(UD-M30/M50)に付属のシステムリモコン(RC-877)を使って操作をおこなうには、本機とUD-M30/M50のシステム接続をおこなってください。(10ページ参照)

(3) 早聞きしながら好きな部分を探すとき(リモコンのみ) 『マニュアルサーチ』

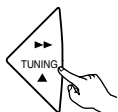
飛び飛びに早聞きすることができます。

長い曲の中から好きな部分を探して、途中から聞くときに便利です。

1 早送りするとき

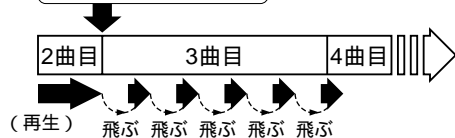


再生中に▶▶ ボタンを押し続けます。
ボタンから指を離せば、そこから通常の再生をおこないます。



▶▶ ボタンを押し続ける。

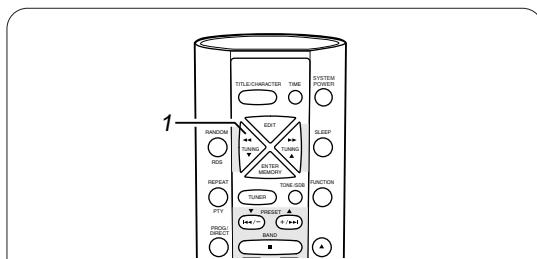
1



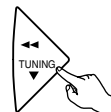
ボタンを押し続けて収録されている最終曲の再生が終わると、自動的に停止します。

音を聞かずに高速早送りをおこなうときは、一時停止中にリモコンの▶▶ ボタンを押し続けてください。

2 早戻しするとき

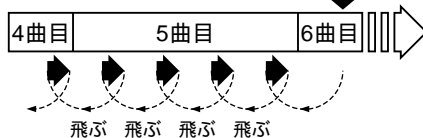


再生中に◀◀ ボタンを押し続けます。
ボタンから指を離せば、そこから通常の再生をおこないます。



◀◀ ボタンを押し続ける。

1



ボタンを押し続けて収録されている最初の曲の頭まで戻ると、マニュアルサーチは終了して再生をはじめます。

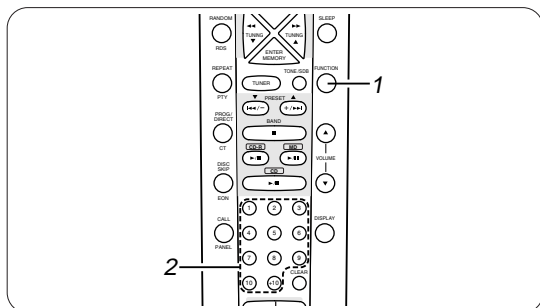
音を聞かずに高速早戻しをおこなうときは、一時停止中にリモコンの◀◀ ボタンを押し続けてください。

ご注意

マニュアルサーチから通常の再生に戻るときに若干音が途切れることがありますが故障ではありません。

(4) 好きな曲を聞くとき(リモコンのみ)

『ダイレクト再生』



1

ファンクションボタンを押して、CDレシーバーのファンクションを『MD』にします。



2

テンキーまたは+10ボタンを押して、聞きたい曲番を選びます。

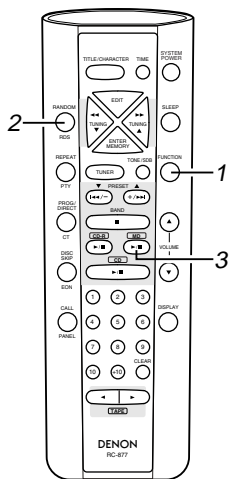
例えば、4曲目を聞きたいときは[4]、12曲目を聞きたいときは[+10]、[2]、30曲目を聞きたいときは[+10]、[+10]、[10]と押してください。その曲から再生がはじまります。

いろいろな再生のしかた(つづき)

CDレシーバー(UD-M30/M50)に付属のシステムリモコン(RC-877)を使って操作をおこなうには、本機とUD-M30/M50のシステム接続をおこなってください。(10ページ参照)

(5) 順不同に聞くととき(リモコンのみ) 『ランダム再生』

ディスクに収録されている曲をランダム(無作為)な順序で1回づつ聞くことができます。



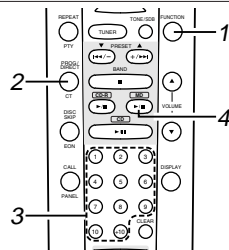
1	ファンクションボタンを押して、CDレシーバーのファンクションを『MD』にします。	 FUNCTION
2	停止中にランダムボタンを押します。 “RANDOM”表示が点灯します。	 RANDOM RDS
3	プレイ/ポーズボタンを押します。 ディスクに収録されている曲番が高速でくり返し表示され、自動的に選曲して再生をはじめます。	 MD
	ランダム再生を止めるときは、停止させてからもう一度ランダムボタンを押してください。	 RANDOM RDS

ご注意

ランダム再生中に1曲リピート再生はできません。
ランダム再生中に、リモコンのリピートボタンを押すと、一通りのランダム再生後、違った曲順でランダム再生をおこないます。以後毎回違った曲順でランダム再生が楽しめます。

(6) 聞きたい曲を好きな順番に聞くととき (リモコンのみ)『プログラム再生』

ディスクに収録されている曲の中から聞きたい曲を選び、好きな順番に聞くことができます。
最大25曲までプログラムすることができます。



1	ファンクションボタンを押して、CDレシーバーのファンクションを『MD』にします。	 FUNCTION
2	停止中にプログラム/ダイレクトボタンを押します。 “PROG”表示が点灯します。	 PROG/DIRECT CT
3	テンキーまたは+10ボタンを押して、プログラムしたい曲番を選びます。 例えば、3曲目、12曲目、7曲目とプログラムしたい場合は、 [3] 、 [+10] 、 [2] 、 [7] と押してください。	
4	プレイ/ポーズボタンを押します。 プログラムされた順に再生します。	 MD
	プログラム内容を確認するときは、コールボタンを押してください。1回押すたびにプログラムされた内容が順次表示されます。 プログラム内容を変更するときは、コールボタンを押して、変更したい曲を表示した後にクリアボタンを押してから操作 3 をおこなってください。また、停止中にクリアボタンを押してから操作 3 をおこなうと、最後にプログラムされた曲が変更後の曲に変わります。 プログラム内容をすべて取り消すときは、停止中にプログラム/ダイレクトボタンを押してください。	 CALL PANE CLEAR PROG/DIRECT CT

ご注意

プログラム再生中、ダイレクト選曲はできません。
プログラム再生中に1曲リピート再生はできません。
プログラム再生中にリモコンのリピートボタンを押すとプログラムされた順に再生をくり返します。
プログラム設定中に総再生時間が256分以上になると正しい時間表示はできませんが、プログラムすることはできません。

いろいろな再生のしかた (つづき)

CDレシーバー (UD-M30/M50) に付属のシステムリモコン (RC-877) を使って操作をおこなうには、本機とUD-M30/M50のシステム接続をおこなってください。(10ページ参照)

(7) くり返して聞くととき (リモコンのみ)

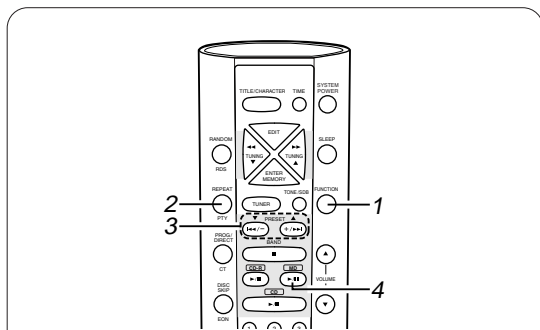
『リピート再生』

1 1曲のみをくり返して聞くととき

『1曲リピート再生』

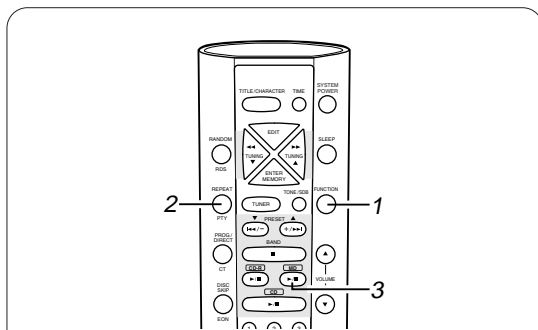
2 全曲をくり返して聞くととき

『全曲リピート再生』



1	ファンクションボタンを押して、CDレシーバーのファンクションを『MD』にします。	
2	リピートボタンを1回押します。 “ RPT 1 ”表示が点灯します。	
3	オートマチックサーチボタンを押して聞きたい曲番を選びます。	
4	<p>プレイ/ポーズボタンを押します。 選択された曲の再生をはじめます。 選択された曲の再生が終わると、その曲の頭に戻って再生をくり返します。</p> <p>【例】3曲目を選んだとき</p> <div style="text-align: center;"> <p>リピートボタンを押す。</p> <p>この動作を何回もくり返す。</p> </div>	

操作2の後テンキー、+10ボタンを押して曲番を選ぶと、選択された曲の1曲リピート再生をはじめます。再生中にリピートボタンを1回押された場合も、再生中の曲を1曲リピート再生します。1曲リピート再生を止めるときは、“RPT”表示が消灯するまでリピートボタンを押してください。



1	ファンクションボタンを押して、CDレシーバーのファンクションを『MD』にします。	
2	リピートボタンを続けて2回押します。 “ RPT ALL ”表示が点灯します。	
3	プレイ/ポーズボタンを押します。 MDの全曲リピート再生をはじめます。	

再生中にリピートボタンを押し“RPT ALL”表示にした場合も、再生中のディスクを全曲リピート再生します。プログラム再生中にリピートボタンを押された場合は、プログラムされた順に再生をくり返します。全曲リピート再生を止めるときは、“RPT”表示が消灯するまでリピートボタンを押してください。



ご注意

プログラム再生中およびランダム再生中に1曲リピート再生はできません。

12 録音のしかた

録音済みのディスクを使用するときは、残り時間に注意してください。

録音済みのディスクの内容をすべて消去して、ディスクの頭から録音したいときは全曲消去操作をおこなってから録音してください。(35ページ参照)

録音をおこなうときは、誤録音/誤消去防止ツメをずらして孔を閉じてください。(21ページ参照)

D-M30/M50シリーズとシステム接続時は、「CDシンクロ録音機能」(52ページ)や「同期録音機能」(53、54ページ)を使うと便利です。

システム接続をしないで録音する場合、ブランクディスク(録音されていないディスク)およびノートトラックディスク(ディスク名のみ記録されたディスク)を入れたときは自動的に録音一時停止状態になりますので、アナログ録音の操作7、およびデジタル録音の操作6は不要です。(オートレックポーズ機能)

また、これらのディスクが入っている状態で電源を入れたときも、オートレックポーズ機能がはたらきます。編集をおこなった後、TOCの記録をおこなわないと“Write UTOC”が表示され、録音モードには入れません。

CDレーザー(UD-M30/M50)に付属のシステムリモコン(RC-877)を使って操作をおこなうには、本機とUD-M30/M50のシステム接続をおこなってください。(10ページ参照)

ご注意

本機のスルー回路(12ページ参照)を使って、CDレーザー(UD-M30/M50)からCDレコーダー(CDR-M30)への録音をおこなっているときに、本機の録音操作または本機へのブランクディスクの挿入はおこなわないでください。CDレコーダーに録音される音が途切れます。

(1) 録音のはじめかた

1 アナログ入力録音をおこなうとき

1: ON / STANDBY button (Main unit)

2: Disc tray

3: FUNCTION button (Main unit)

4: INPUT button (Main unit)

5: ATM button (Main unit)

6: MULTI REC button (Main unit)

7: REPEAT button (Main unit)

8: PAUSE button (Main unit)

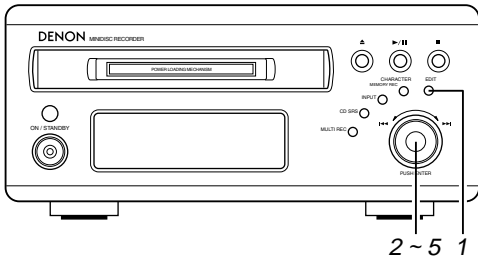

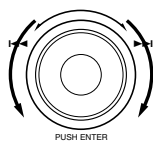
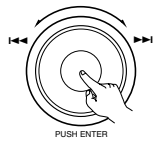
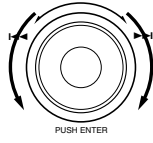
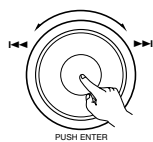
9: TIME button (Main unit)

3	<p>《記録済みのディスクを使用する場合》</p> <p>リモコンのファンクションボタンを押して、CDレーザーのファンクションを『MD』にした後、タイムボタンを押して録音可能時間を確認します。</p> <p>ボタンを押すたびに、記録済み時間と録音可能時間が切り替わります。</p>	<p>FUNCTION</p> <p>(リモコン)</p> <p>TIME</p> <p>(リモコン)</p>
4	<p>入力切り替えボタンを押して、『LINE1』または『LINE2』に切り替えます。</p> <p>選択された入力ソースの“ANA 1”または“ANA 2”表示が点灯します。</p>	<p>INPUT</p> <p>(本体)</p>
5	<p>29ページの「オートトラックマーク(ATM)の設定」の操作をおこない、ATM機能のオン/オフを選びます。</p> <p>ATM機能：オン “ATM”表示が点灯します。録音入力信号の無音部(約3秒以上)を感知すると自動的に曲番をつけて記録します。</p> <p>ATM機能：オフ 一続きの曲として記録されます。</p>	
6	<p>CDプレーヤー、カセットデッキなどで、録音したい曲を再生します。</p>	
7	<p>録音ボタンを1回押します。</p> <p>録音一時停止状態になります。</p>	<p>MULTI REC</p> <p>(本体)</p>

録音のしかた (つづき)

8	<p>ジョグダイヤルを回して録音レベルを調整します。</p> <p>レベルメーターが“OVER”表示まで点灯しないように調整してください。調整が終わったら、録音したい曲をスタンバイ状態にします。</p> <p>設定された録音レベルは記憶されますが、2、3日間通電していない状態が続くと、データが消去される場合があります。</p>	 <p>(本体)</p>
9	<p>《 D-M30/M50シリーズ以外の機器から録音する場合》 《 (システム接続していない機器から録音するとき) 》</p> <p>チューナーの放送の場合は録音したいところで、CDプレーヤー、カセットデッキなどは録音したい曲を再生し、プレイ/ポーズボタンを押します。</p> <p>録音をはじめます。</p>	 <p>(本体) (リモコン)</p>
<p>D-M30/M50シリーズとシステム接続して録音するときは、CDレシーバー (UD-M30/M50)、CDレコーダー (CDR-M30)、カセットデッキ (DRR-M30) と同期録音機能がはたらき、各機器のプレイ/ポーズボタン (▶/) を押すと自動的に録音を開始します。詳しくは53、54ページの「同期録音機能」を参照してください。</p>		

【オートトラックマーク (ATM) の設定】

		
1	<p>停止中にエディットボタンを押します。</p>	
2	<p>ジョグダイヤルを回して“Analog A.T.M?”を表示させます。</p>	
3	<p>エンターボタンを押して、オートトラックマークの選択モードを確定します。</p>	
4	<p>ジョグダイヤルを回して、オートトラックマークのオン/オフを設定します。</p> <p>選択されているモードが点滅します。</p>	
5	<p>エンターボタンを押して、オートトラックマークのオン/オフを確定します。</p> <p>“A.T.M On (Off)”が表示されます。</p>	
<p>オートトラックマークの設定は、アナログ録音一時停止状態でもおこなえます。</p>		

録音のしかた(つづき)



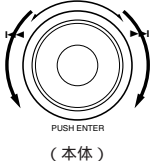




② デジタル入力録音をおこなうとき

本機にはサンプリングコンバーターが搭載されています。

デジタル入力信号のサンプリング周波数がCD(44.1kHz)と異なる衛星放送やDAT(32kHz、48kHz)の場合は、自動的にサンプリング周波数を44.1kHzに変換して録音します。

The diagram shows the front panel of the Denon Music Recorder and its remote control. Callouts 1 through 8 indicate the following steps:

- 1: Power button on the remote.
- 2: Disc tray on the recorder.
- 3: Function button on the remote.
- 4: CD player input on the recorder.
- 5: Multi REC button on the recorder.
- 6: Input button on the remote.
- 7: Jog dial on the remote.
- 8: Time button on the remote.

4	CDプレーヤーなどで録音したい曲を再生します。
5	録音ボタンを押します。 録音一時停止状態になります。  (本体)
6	入力切り替えボタンを押して、『Opt-1:MD』または『Opt-2』に切り替えます。 選択された入力ソースの“OPT1”または“OPT2”表示が点灯し、入力ソースのサンプリング周波数が表示されます。 “OPT1”または“OPT2”表示が点滅しているときは、データが正常に入力されていないためです。このようなときは、デジタル入力端子の接続を確認してください。  (本体)
7	ジョグダイヤルを回して録音レベルを調整します。 レベルメーターが“OVER”表示まで点灯しないように調整してください。 調整が終わったら、録音したい曲をスタンバイ状態にします。 設定された録音レベルは記憶されますが、2、3日間通電していない状態が続くと、データが消去される場合があります。  (本体)
1	電源を入れます。  (本体) (リモコン)
2	録音用のディスクを入れます。 ディスクを入れるときは、ディスク上面の矢印の向きに従ってディスク挿入口に差し込んでください。ディスクは自動的に引き込まれます。
3	《記録済みのディスクを使用する場合》 リモコンのファンクションボタンを押して、CDレシーバーのファンクションを『MD』にした後、タイムボタンを押して録音可能時間を確認します。 ボタンを押すたびに、記録済み時間と録音可能時間が切り替わります。  (リモコン)  (リモコン)
8	《D-M30/M50シリーズ以外の機器から録音する場合》 《(システム接続していない機器から録音するとき)》 放送受信の場合は録音したいところで、プレイ/ポーズボタンを押します。 CDプレーヤー、DATなどは録音したい曲を再生し、プレイ/ポーズボタンを押します。 録音をはじめます。  (本体) (リモコン)
D-M30/M50シリーズとシステム接続して録音するときは、CDレシーバー(UD-M30/M50)、CDレコーダー(CDR-M30)と同期録音機能がはたらき、各機器のプレイ/ポーズボタン(▶/)を押すと自動的に録音を開始します。詳しくは53、54ページの「同期録音機能」を参照してください。	

録音のしかた(つづき)

(2) 録音の止めかた



録音中にストップボタンを押します。
録音が停止し、TOC情報の書き込みがおこなわれます。

1

また、ディスクに録音可能な時間いっぱい
の録音がされると、自動的に停止します。



ご注意

CDやMDからのデジタル録音では、曲番も自動的に記録されます。(CDまたはMDの録音内容やCDプレーヤーなどの機器によっては、曲番がCDまたはMDと異なる場合があります。)

CDまたはMDからの録音時にCDまたはMDの再生が始まると、曲番が1つ繰り上がる場合があります。このような場合は、不要な曲番を消去(ERASE)してください。(34ページ参照)

CD、MD以外のデジタル録音では、自動的に無音部を感知して曲番をつけて録音されます。

CDまたはMDからのデジタル録音で同じ曲を続けてプログラムしたり、1曲リピート再生をした場合、曲番が切り替わらないことがあります。

本機では、モノラル録音はできません。

デジタル録音をおこなったMDからさらにデジタル録音をおこなうことはできません。本機はシリアルコピーマネージメントシステム(SCMS)に準拠しています。(シリアルコピーマネージメントシステムとは、各種デジタルオーディオ機器間でのデジタル信号どうしの複製を『1世代まで』と規制したものです。)デジタル録音をおこなったMDを録音するときは、アナログ録音をしてください。

デジタル録音をおこなっている途中で、“Copy Prohibit”または“Dig. Unlock”表示になり録音一時停止状態になったときにディスクを排出したい場合は、一度ストップボタン(■)を押してからイジェクトボタン(▲)を押してディスクを取り出してください。

TOC情報書き込み時の注意

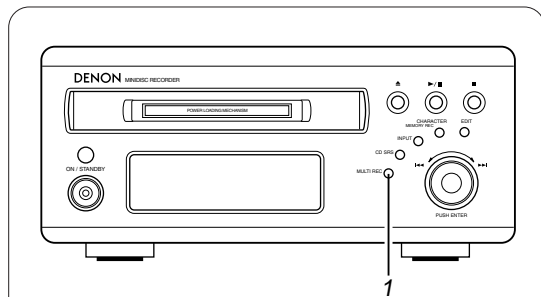
ご注意

TOC情報の書き込みをはじめると“**TOC**”表示が点滅しますので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。録音や編集された内容が損なわれたり、正しく記録されないことがあります。

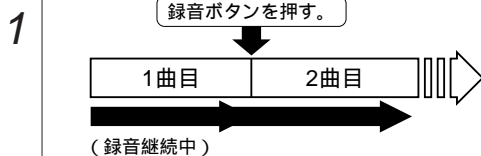
13 いろいろな録音のしかた

(1) 録音中に曲番をつけたいとき

録音中、録音モードに関わらず、曲番を付けることができます。



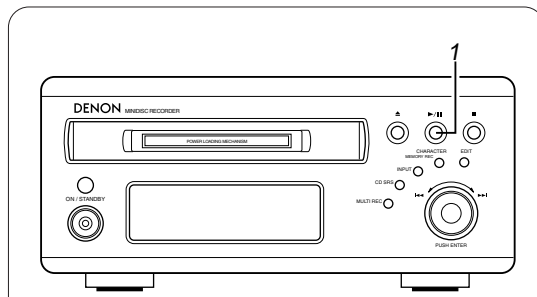
録音中に録音ボタンを押します。
ボタンを押したところで曲番
が変わります。



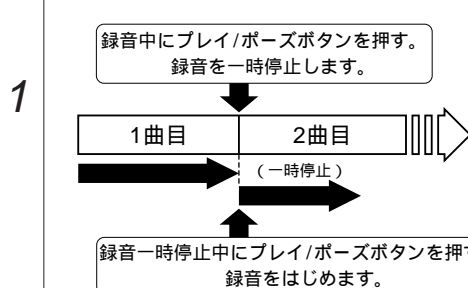
曲番を切り替えてから約4秒間は、曲番を切り替えることができません。

(2) 録音途中で一時的に止めておくとき

録音の途中で一時録音を止め、再びその位置から録音することができます。



録音中にプレイ/ポーズボタン
を押します。
ボタンを押したところで一時停止
して、曲番が変わります。



続けて録音するときは、もう一度プレ
イ/ポーズボタンを押してください。



ご注意

録音終了後、TOC情報の書き込みをはじめると“TOC”表示が点滅しますので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。録音された内容が損なわれたり、正しく記録されないことがあります。

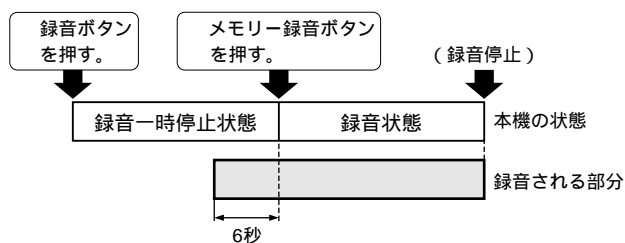
いろいろな録音のしかた(つづき)

(3)6秒前の音から録音するとき

『メモリー録音』

録音一時停止状態にした時点で、本機に入力されていた音を最大6秒前にさかのぼったところから録音をはじめることができます。

衛生放送などのエアチェック(AIR CHECK)で録音をはじめるときのタイミングが遅れ、頭の部分を録音し損なうことを防ぐときに便利です。



ご注意

本機は録音一時停止状態にした時点から、入力されている音をメモリーに蓄えはじめます。従って、録音一時停止状態にしてから6秒以上経過した後で録音をはじめないと、6秒前の音から録音できません。

また、メモリー録音をはじめるときの間に、入力切り替えボタン(INPUT)で入力を切り替えたときは、切り替える前の入力音声録音されることがあります。

ご注意

TOC情報の書き込みをはじめると「TOC」表示が点滅しますので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。録音された内容が損なわれたり、正しく記録されないことがあります。

1	<p>「録音のはじめかた」(28~30ページ)の操作をおこないます。</p> <p>アナログ入力録音のときは、「アナログ入力録音をおこなうとき」の操作1~8をおこなってください。デジタル入力録音のときは、「デジタル入力録音をおこなうとき」の操作1~7をおこなってください。</p>
2	<p>メモリー録音ボタンを押します。ボタンを押した時点より最大6秒前にさかのぼり、録音をはじめます。このとき「Memory Rec」が表示されます。</p>
	<p>メモリー録音を止めるときは、ストップボタンを押してください。録音が停止し、TOC情報の書き込みがおこなわれます。</p>

14 編集のしかた

編集機能を使用すると、曲番をつけたり、曲をつないだり、不要な部分を消したりすることができます。

また、ディスクや曲ごとにタイトルをつけることもできます。

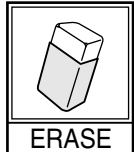


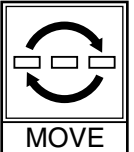
いろいろなミニディスクの便利な編集操作を存分にお楽しみいただけます。

CDレシーバー（UD-M30/M50）に付属のシステムリモコン（RC-877）を使って操作をおこなうには、本機とUD-M30/M50のシステム接続をおこなってください。（10ページ参照）

(1) 編集のしかた

本機の編集機能には、次の4つのはたらきがあります。

編集機能（EDIT）

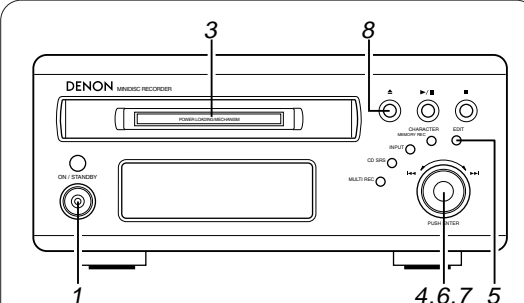
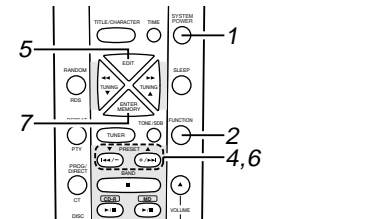
 ERASE	 DIVIDE	 COMBINE	 MOVE
1曲消去 全曲消去	曲の分割	曲の結合	曲の移動




4つの編集機能を組み合わせて使用することで、様々な編集が可能となります。

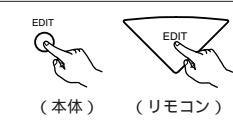
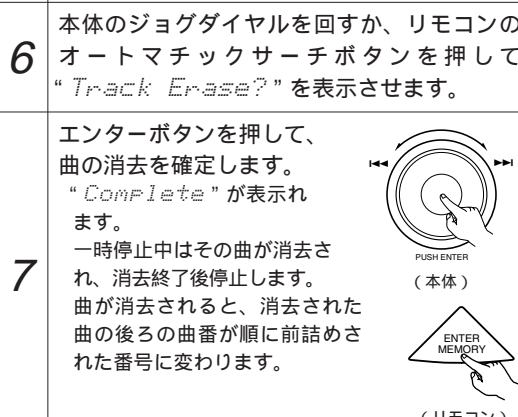
編集およびタイトル入力をおこなうときは、誤録音/誤消去防止ツメをずらして孔を閉じて録音できる状態にしてください。




1 1曲消去のしかた

1	電源を入れます。	ON / STANDBY	SYSTEM POWER
			
		(本体)	(リモコン)
2	リモコンのファンクションボタンを押して、CDレシーバーのファンクションを『MD』にします。	FUNCTION	
			(リモコン)
3	ディスク挿入口に1曲消去をおこなうディスクを入れます。		

4	停止中に本体のジョグダイヤルを回すか、リモコンのオートマチックサーチボタンを押して消去したい曲番を表示させます。	
	一時停止中の曲を消去するときは、この操作は不要です。5から操作します。	
5	エディットボタンを押します。	EDIT
	“Edit Mode”が表示されます。	 (本体)  (リモコン)
6	本体のジョグダイヤルを回すか、リモコンのオートマチックサーチボタンを押して“Track Erase?”を表示させます。	
	エンターボタンを押して、曲の消去を確定します。	PUSH ENTER
7	“Complete”が表示されます。	
	一時停止中はその曲が消去され、消去終了後停止します。曲が消去されると、消去された曲の後ろの曲番が順に前詰めされた番号に変わります。	 (リモコン)

編集のしかた (つづき)

8

イジェクトボタンを押して、曲の消去動作を完了させます。

TOC情報を書き込み、ディスクを排出します。書き込みを始めるると“**TOC**”表示が点滅しますので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。正しく記録されない場合があります。



(本体)

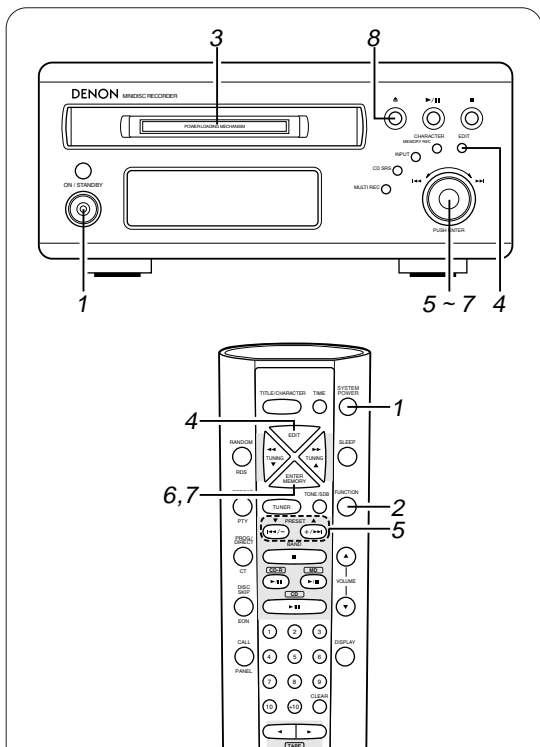
8

つづき

TOC情報の書き込みは、次の操作でもおこなうことができます。

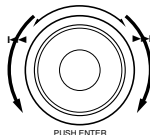
- ・電源ボタンを押して電源をスタンバイ状態にする。
- ・停止中にストップボタン (■) を押す。

2 すべての曲の消去 (全曲消去) のしかた

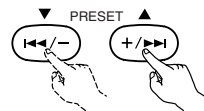


5

本体のジョグダイヤルを回すか、リモコンのオートマチックサーチボタンを押して“*All Erase?*”を表示させます。



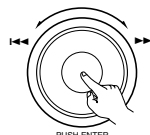
(本体)



(リモコン)

6

エンターボタンを押します。“*Erase OK?*”と確認のメッセージが表示されます。



(本体)



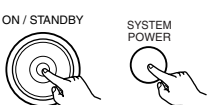
(リモコン)

7

もう一度エンターボタンを押して、全ての曲の消去を確定します。“*Complete*”が表示されます。

1

電源を入れます。



(本体)



(リモコン)

2

リモコンのファンクションボタンを押して、CDレシーバーのファンクションを『MD』にします。



(リモコン)

3

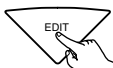
ディスク挿入口に全曲消去をおこなうディスクを入れます。

4

エディットボタンを押します。“*Edit Mode*”が表示されます。



(本体)



(リモコン)

8

イジェクトボタンを押して、曲の消去動作を完了させます。

TOC情報を書き込み、ディスクを排出します。書き込みを始めるると“**TOC**”表示が点滅しますので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。正しく記録されない場合があります。TOC情報の書き込みは、次の操作でもおこなうことができます。

- ・電源ボタンを押して電源をスタンバイ状態にする。
- ・停止中にストップボタン (■) を押す。

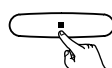


(本体)

“*All Erase?*”による消去では、全曲消去すると同時にディスク名も消去されます。全曲消去を止めるときは、操作7の前にストップボタンまたはクリアボタンを2回押して、“*Erase OK?*”と“*All Erase?*”表示を消してください。



(本体)



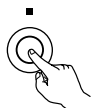
(リモコン)



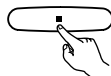
または (リモコン)

編集のしかた(つづき)

1つ前の状態に戻したいときは、クリアボタンを押してください。
A-B間消去を止めるときは、操作14の前にストップボタンまたはクリアボタンを押してください。



(本体)



(リモコン)

または



(リモコン)

ご注意

一度消去された曲は、「UNDO機能」(47ページ)で元に戻ることがありますが、必ず確認してから消去してください。

4 曲を分割するには

録音後に曲を分割して曲番をつけることができます。
好きなところで曲番をつけることができ、選曲を簡単におこなうことができますようになります。



1	電源を入れます。 (本体) (リモコン)
2	ディスク挿入口に曲の分割をおこないたいディスクを入れ、プレイ/ポーズボタンを押してディスクを再生します。 (本体) (リモコン)
3	曲を分割したい位置で、一時停止させます。 (本体) (リモコン)

4	一時停止中にエディットボタンを押します。 “Edit Mode”が表示されます。 (本体) (リモコン)
5	本体のジョグダイヤルを回すか、リモコンのオートマチックサーチボタンを押して“Divide?”を表示させます。 (本体) (リモコン)
6	エンターボタンを押します。 “Position OK?”が表示されます。 曲を分割する部分が数秒間繰り返し再生されます。 (本体) (リモコン)
7	《分割する位置を微調整したいとき》 本体のジョグダイヤルを回すか、リモコンのオートマチックサーチボタンを押して、分割する位置を移動させます。 “Position±ポイント数”が表示されます。 微調整できる範囲は、最大 - 255 ~ + 255ポイントまでです。(1ポイントは約0.012秒) 微調整後の分割する部分が、数秒間繰り返し再生されます。 微調整後、よければエンターボタンを押します。 “Position OK?”が表示されます。
8	エンターボタンを押して、曲の分割を確定します。 “Complete”が表示されます。

(次のページにつづきます)

編集のしかた(つづき)

9

イジェクトボタンを押して、曲の分割動作を完了させます。

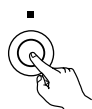
TOC情報を書き込み、ディスクを排出します。書き込みをはじめる
と「**TOC**」表示が点滅しますので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。
正しく記録されない場合があります。
TOC情報の書き込みは、次の操作でもおこなうことができます。

- ・電源ボタンを押して電源をスタンバイ状態にする。
- ・停止中にストップボタン(■)を押す。

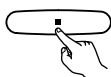


(本体)

1つ前の状態に戻したいときは、クリアーボタンを押してください。
曲名がついている曲を分割したときは、分割された両方の曲に同じ曲名がつきます。(リモコン)
分割した曲を元に戻すときは、「曲を結合するには」(38、39ページ)を参照してください。
曲の分割を止めるときは、操作8の前にストップボタンまたはクリアーボタンを押してください。



(本体)



(リモコン)



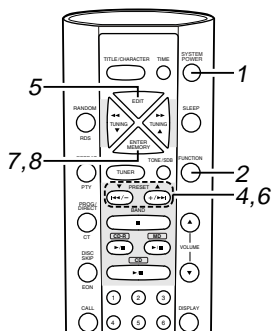
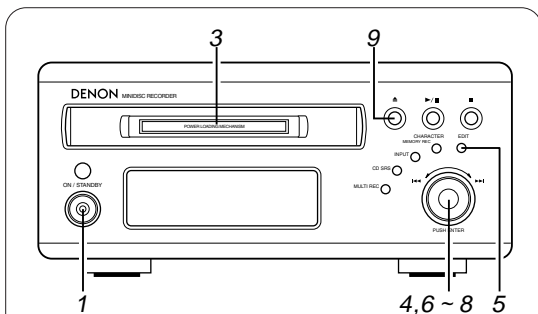
または



(リモコン)

5 曲を結合するには

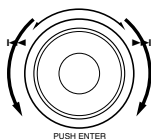
連続した2つの曲をつないで1曲にすることができます。



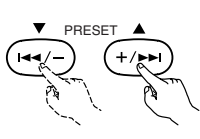
3 ディスク挿入口に曲の結合をおこなうディスクを入れます。

停止中に本体のジョグダイヤルを回すか、リモコンのオートマッチ検索ボタンを押して、結合する2つの曲の曲番の大きい方を表示させます。

4



(本体)



(リモコン)

5

エディットボタンを押します。
“Edit Mode”が表示されます。



(本体)



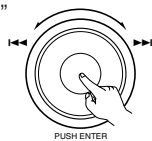
(リモコン)

6

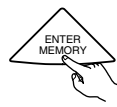
本体のジョグダイヤルを回すか、リモコンのオートマッチ検索ボタンを押して、“Combine?”を表示させます。

7

エンターボタンを押します。
“Combine OK?”が表示されます。
曲のつなぎの部分、数秒繰り返し再生されます。



(本体)



(リモコン)

8

エンターボタンを押して、曲の結合を確定します。
“Complete”が表示されます。

1

電源を入れます。



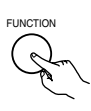
(本体)



(リモコン)

2

リモコンのファンクションボタンを押して、CDレーザーのファンクションを『MD』にします。




(リモコン)

編集のしかた(つづき)

9 イジェクトボタンを押して、曲の結合動作を完了させます。

TOC情報を書き込み、ディスクを排出します。書き込みをはじめると“**TOC**”表示が点滅しますので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。正しく記録されない場合があります。TOC情報の書き込みは、次の操作でもおこなうことができます。

- 電源ボタンを押して電源をスタンバイ状態にする。
- 停止中にストップボタン(■)を押す。




(本体)

1つ前の状態に戻したいときは、クリアボタンを押してください。


結合された曲を元に戻すときは、「曲を分割するには」(37、38ページ)を参照してください。

一時停止中でも曲を結合することができます。この場合、一時停止している曲とその前の曲が結合されます。曲名は結合したい2つの曲の曲番が小さい曲のものになります。ただし、その曲に曲名がついていないときは、後ろの曲の曲名がつかます。

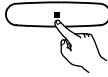


(リモコン)

曲の結合を止めるときは、操作8の前にストップボタンまたはクリアボタンを押してください。




(本体)



(リモコン)

または



(リモコン)

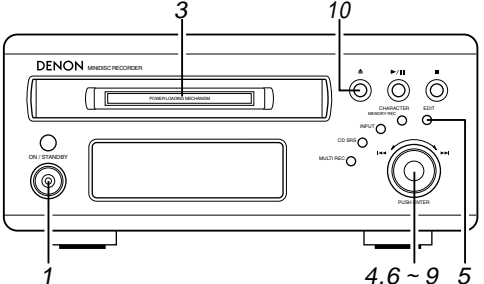
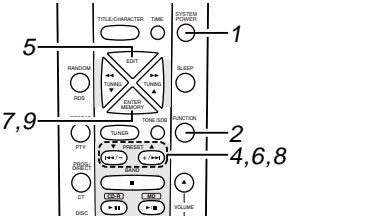
ご注意

デジタル入力から録音された曲とアナログ入力から録音された曲を結合することはできません。MDLP録音された曲と、通常録音された曲を結合することはできません。

15秒以下の短い曲では結合できないことがあります。(操作8でエンターボタンを押した時“Impossible”が表示されます。)

ステレオで録音した曲と他のMDレコーダーでモノラル録音した曲は結合できません。

6 1曲ずつ移動するには

1 電源を入れます。

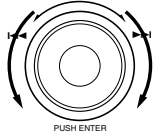
ON / STANDBY (本体) SYSTEM POWER (リモコン)

2 リモコンのファンクションボタンを押して、CDレーザーのファンクションを『MD』にします。

FUNCTION (リモコン)

3 ディスク挿入口に曲の移動をおこなうディスクを入れます。

4 停止中に本体のジョグダイヤルを回すか、リモコンのオートマチックサーチボタンを押して、移動したい曲番を表示させます。



PUSH ENTER (本体)



PRESET (リモコン)

5 エディットボタンを押します。“Edit Mode”が表示されます。

EDIT (本体) EDIT (リモコン)

6 本体のジョグダイヤルを回すか、リモコンのオートマチックサーチボタンを押して、“Move?”を表示させます。

7 エンターボタンを押して“ Tr (移動前) / Tr (移動後)”を表示させます。



PUSH ENTER (本体)



ENTER MEMORY (リモコン)

8 本体のジョグダイヤルを回すか、リモコンのオートマチックサーチボタンを押して、移動後の曲番を指定します。

9 エンターボタンを押して、曲の移動を確定します。“Complete”が表示されます。

編集のしかた(つづき)

10

イジェクトボタンを押して、曲の移動動作を完了させます。

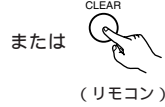
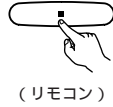
TOC情報を書き込み、ディスクを排出します。書き込みをはじめる時“TOC”表示が点滅しますので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。

正しく記録されない場合があります。TOC情報の書き込みは、次の操作でもおこなうことができます。

- ・電源ボタンを押して電源をスタンバイ状態にする。
- ・停止中にストップボタン(■)を押す。

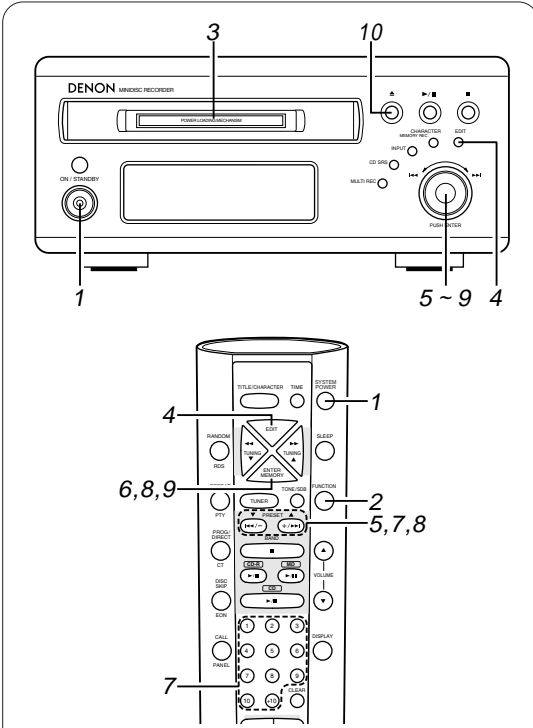


曲の移動を止めるときは、操作9の前にストップボタンまたはクリアボタンを押してください。



7 曲を並べ替えるには

ミニディスクに録音した曲の曲番を並べ替えるときに便利です。



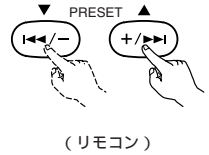
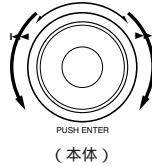
4

停止中にエディットボタンを押します。“Edit Mode”が表示されます。



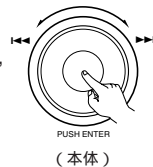
5

本体のジョグダイヤルを回すか、リモコンのオートマチックサーチボタンを押して“Program Move?”を表示させます。



6

エンターボタンを押します。“New 01<03Tr”が表示され、新たに1曲目としてプログラムするモードになります。



7

本体のジョグダイヤルを回すか、リモコンのオートマチックサーチボタンまたはテンキーを押した後にエンターボタンを押して、移動する曲番をプログラムします。

例えば、現在3曲目の曲を1曲目とする場合は、『3』を指定してください。このとき“New 01<03Tr”が表示され、エンターボタン(ENTER)を押すと次の曲番の設定状態になり、“New 02<---Tr”が表示されます。続けて曲番をプログラムするときは、操作7をくり返しおこなってください。

8

エンターボタンを押します。操作6でプログラムした内容を確定するときは、“New 00<---Tr”表示のときにエンターボタン(ENTER)を押してください。“Prog.Move OK?”が表示されます。

1

電源を入れます。



2

リモコンのファンクションボタンを押して、CDレシーバーのファンクションを『MD』にします。



3

ディスク挿入口に曲の並べ替えをおこなうディスクを入れます。

編集のしかた(つづき)

- 9** エンターボタンを押して、曲の移動を確定します。
"Complete" が表示されます。
- 10** イジェクトボタンを押して、曲の移動動作を完了させます。
TOC情報を書き込み、ディスクを排出します。書き込みをはじめると"TOC"表示が点滅しますので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。
正しく記録されない場合があります。
TOC情報の書き込みは、次の操作でもおこなうことができます。
・電源ボタンを押して電源をスタンバイ状態にする。
・停止中にストップボタン(■)を押す。



(本体)

曲番の指定は、最大25曲までできます。
操作7のときにクリアボタンを押すと、最後にプログラムした曲番から順に削除します。
操作7のときにコールボタンを押すと、プログラムした内容が確認できます。
曲の移動を止めるときは、操作9の前にストップボタンまたはクリアボタンを押してください。



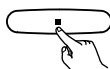
(リモコン)



(リモコン)



(本体)



(リモコン)



(リモコン)

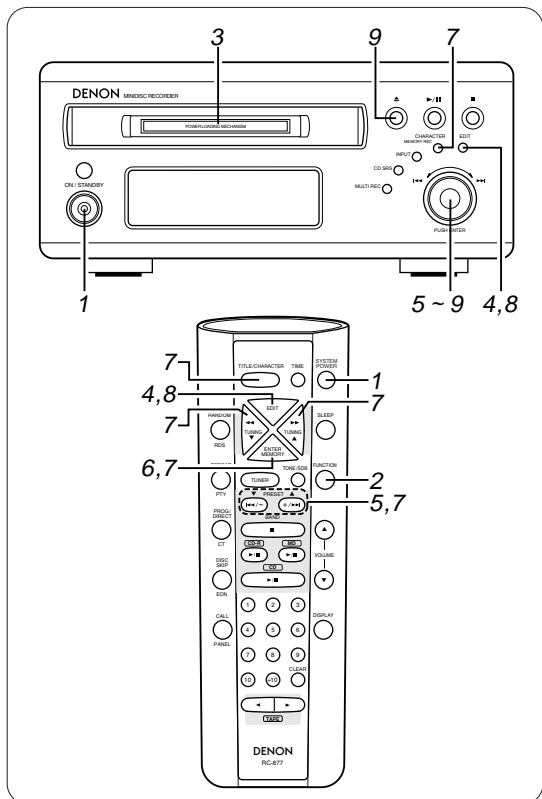
ご注意

プログラムした曲以外の曲は、プログラムした曲の後ろに並べ替えられます。
同じ曲を2回以上プログラムすることはできません。

(2) タイトルをつける

英大文字、英小文字、数字、特殊文字、カタカナで曲名やディスク名を入力することができます。
曲名やディスク名は、それぞれ100文字(英数字の場合)まで入力することができます。

1 ディスク名をつけるには



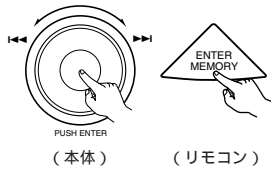
- 1** 電源を入れます。
ON / STANDBY SYSTEM POWER
- 2** リモコンのファンクションボタンを押して、CDレシーバーのファンクションを『MD』にします。
FUNCTION
- 3** ディスク挿入口にディスク名をつけたいディスクを入れます。
- 4** エディットボタンを押します。
"Edit Mode" が表示されます。
EDIT
- 5** 本体のジョグダイヤルを回すか、リモコンのオートマチックサーチボタンを押して "Disc Name In?" を表示させます。
PUSH-ENTER PRESET

(次のページにつづきます)

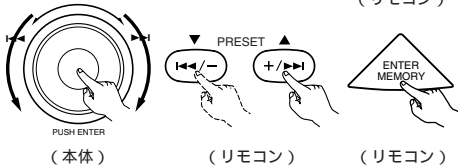
編集のしかた(つづき)

6

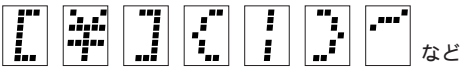
エンターボタンを押します。タイトル入力待ちを表わすカーソルが点滅します。



本体のキャラクターボタンまたはリモコンのタイトル/キャラクターボタンで入力モードを選び、本体のジョグダイヤルを回すか、リモコンのオートマッチクサーチボタンを押してタイトル文字を選び、エンターボタンで1文字ずつ入力します。

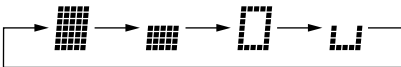


本機で入力できても、他の機種では表示されない特殊文字がありますので、ご注意ください。

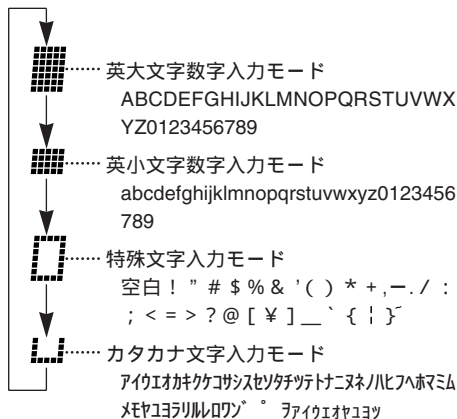


タイトル/キャラクターボタンを押すたびに、カーソルの形が変わり、入力モードが切り替わります。

7



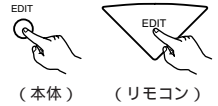
〔カーソルの説明と表示できる文字・記号〕



▶▶ ボタンまたはエンターボタンを押すと、選択された文字を確定してカーソルが次の文字に移り、次の文字の入力待ち状態となります。
 ◀◀ ボタンを押すと、カーソルを戻すことができます。入力文字を修正するときに使用します。

8

エディットボタンを押して、入力したディスク名を確定します。



9

イジェクトボタンを押して、TOC情報をディスクへ書き込みます。

TOC情報を書き込み、ディスクを排出します。書き込みをはじめると“**TOC**”表示が点滅しますので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。正しく記録されない場合があります。TOC情報の書き込みは、次の操作でもおこなうことができます。

- ・電源ボタンを押して電源をスタンバイ状態にする。
- ・停止中にストップボタン(■)を押す。



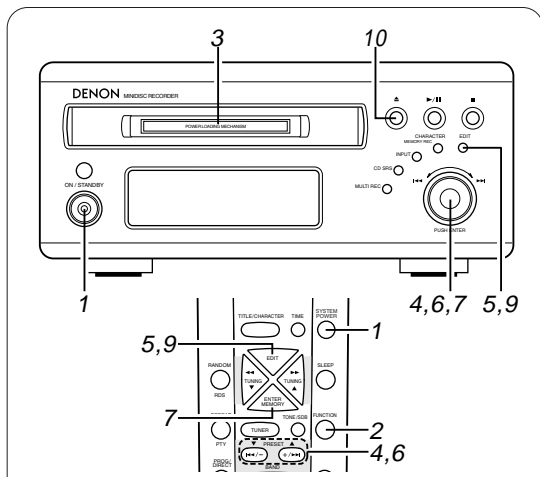
文字を消去するときは、消したい文字にカーソルを合わせてからクリアボタンを押してください。



文字を修正するときは、修正したい文字を消去してからもう一度文字を入力してください。

編集のしかた(つづき)

2 曲名をつけるには



1	<p>電源を入れます。</p> <p>ON / STANDBY SYSTEM POWER</p> <p>(本体) (リモコン)</p>
2	<p>リモコンのファンクションボタンを押して、CDレーザーのファンクションを『MD』にします。ファンクションがMD以外のとき、リモコンでは以下の操作はおこなえません。</p> <p>FUNCTION</p> <p>(リモコン)</p>
3	<p>ディスク挿入口に曲名をつけたいディスクを入れます。</p>
4	<p>停止中に本体のジョグダイヤルを回すか、リモコンのオートマッチクサーチボタンを押して、曲名をつける曲番を表示させます。</p> <p>PUSH ENTER PRESET</p> <p>(本体) (リモコン)</p>

5	<p>エディットボタンを押します。“Edit Mode”が表示されます。</p> <p>EDIT</p> <p>(本体) (リモコン)</p>
6	<p>本体のジョグダイヤルを回すか、リモコンのオートマッチクサーチボタンを押して“Track Name In?”を表示させます。</p>
7	<p>エンターボタンを押します。タイトル入力待ちを表わすカーソルが点滅します。</p> <p>ENTER MEMORY</p> <p>(本体) (リモコン)</p>
8	<p>タイトルを入力します。タイトルの入力のしかたは、「ディスク名をつけるには」(42ページ)の操作7を参照してください。</p>
9	<p>エディットボタンを押して、入力した曲名を確定します。</p>
10	<p>イジェクトボタンを押して、TOC情報をディスクへ書き込みます。TOC情報を書き込み、ディスクを排出します。書き込みをはじめる時“TOC”表示が点滅しますので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。正しく記録されない場合があります。TOC情報の書き込みは、次の操作でもおこなうことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 電源ボタンを押して電源をスタンバイ状態にする。 停止中にストップボタン(■)を押す。 <p>(本体)</p>

再生中または録音中に曲名をつけるときは、曲が変わるまでに曲名をつけ終わってください。途中で曲が変わると、それまでに入力された文字は無効になります。録音一時停止中に入力された文字は、ストップボタンを押すと無効になります。録音中、リモコンでは曲名をつけることができません。CD SRS中は、曲名をつけることができません。

ご注意

本機でつけたカタカナのタイトルは、カタカナ入力に対応していない他の機器では正しく表示されません。また一部のカタカナ入力対応機器では、正しく表示されない場合があります。ディスク名と曲名はそれぞれ100文字(英数字の場合)まで入力することができます。100文字を超えるとディスプレイに“Name Full”が表示されます。他のミニディスクレコーダーで100文字以上入力したミニディスクに本機でタイトル入力の操作をおこなうと100文字を超える文字は消去されます。ディスク名と曲名を合わせて約1700文字(英数字の場合)まで入力できます。文字数を超えると、ディスプレイに“Name Full”が表示されます。カタカナは、1文字当たりのデータ量が多いため、入力できる文字数が英数字にくらべて少なくなります。

編集のしかた(つづき)

(3) タイトルを消去する

曲名やディスク名を消去することができます。

1 ディスク名を消去するには

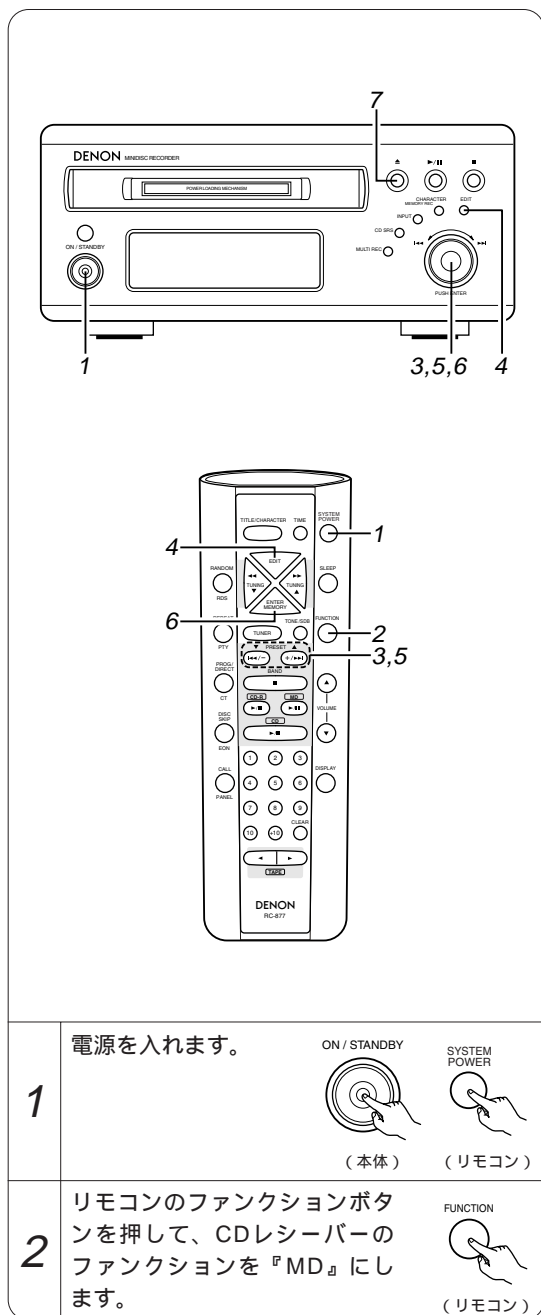
The diagram shows the front panel of the Denon Music Recorder and its remote control. Numbered callouts 1 through 7 point to specific controls used in the erasing process:

- 1: Power button on the remote.
- 2: Function button on the remote.
- 3: Disc tray on the recorder.
- 4: Edit button on the remote.
- 5: Enter button on the remote.
- 6: Disc tray on the remote.
- 7: Edit button on the recorder's front panel.

4	<p>停止中に、総曲数が表示されているときに、エディットボタンを押します。 “Edit Mode”が表示されます。</p>	(本体) (リモコン)
5	<p>本体のジョグダイヤルを回すか、リモコンのオートマチックサーチボタンを押して“Disc N.Erase?”を表示させます。</p>	(本体) (リモコン)
6	<p>エンターボタンを押して、ディスク名の消去を確定します。 “Complete”が表示されます。</p>	(本体) (リモコン)
7	<p>イジェクトボタンを押して、TOC情報をディスクへ書き込みます。 TOC情報を書き込み、ディスクを排出します。書き込みを始めたとき、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。 正しく記録されない場合があります。 TOC情報の書き込みは、次の操作でもおこなうことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源ボタンを押して電源をスタンバイ状態にする。 ・停止中にストップボタン(■)を押す。 	(本体)
	<p>消去を止めるときは、操作6の前にストップボタンまたはクリアーボタンを押してください。</p>	(本体) (リモコン)

編集のしかた(つづき)

2 曲名を消去するには



3	<p>停止中に本体のジョグダイヤルを回すか、リモコンのオートマチックサーチボタンを押して、曲名を消去する曲番を表示させます。</p> <p>(本体) (リモコン)</p>
4	<p>曲名を消去する曲番が表示されているときに、エディットボタンを押します。 "Edit Mode" が表示されます。</p> <p>(本体) (リモコン)</p>
5	<p>本体のジョグダイヤルを回すか、リモコンのオートマチックサーチボタンを押して "Tr-Name Erase?" を表示させます。</p>
6	<p>エンターボタンを押して、曲名の消去を確定します。 "Complete" が表示されます。</p> <p>(本体) (リモコン)</p>
7	<p>イジェクトボタンを押して、TOC情報をディスクへ書き込みます。 TOC情報を書き込み、ディスクを排出します。書き込みを始めたときに "TOC" が点滅しますので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。 正しく記録されない場合があります。 TOC情報の書き込みは、次の操作でもおこなうことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電源ボタンを押して電源をスタンバイ状態にする。 ・停止中にストップボタン (■) を押す。 <p>(本体)</p>
2	<p>消去を止めるときは、操作6の前にストップボタンまたはクリアボタンを押してください。</p> <p>(本体) (リモコン)</p>
1	<p>電源を入れます。</p> <p>(本体) (リモコン)</p>
2	<p>リモコンのファンクションボタンを押して、CDレーザーのファンクションを『MD』にします。</p> <p>(リモコン)</p>

編集のしかた (つづき)

3 すべての曲名およびディスク名を消去するには

The diagram shows the front panel of the Denon MC877 Music Recorder and its remote control. Numbered callouts indicate the following components:

- 1: Power switch on the front panel.
- 2: Function button on the remote control.
- 3: Disc tray on the front panel.
- 4: Joystick dial on the front panel.
- 5: Enter button on the remote control.
- 6: Disc tray on the remote control.
- 7: Edit button on the front panel.

1	<p>電源を入れます。</p> <p>ON / STANDBY SYSTEM POWER</p> <p>(本体) (リモコン)</p>
2	<p>リモコンのファンクションボタンを押して、CDレシーバーのファンクションを『MD』にします。</p> <p>FUNCTION</p> <p>(リモコン)</p>
3	<p>ディスク挿入口にすべての曲名およびディスク名を消去するディスクを入れます。</p>

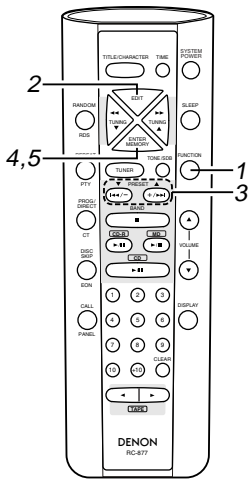
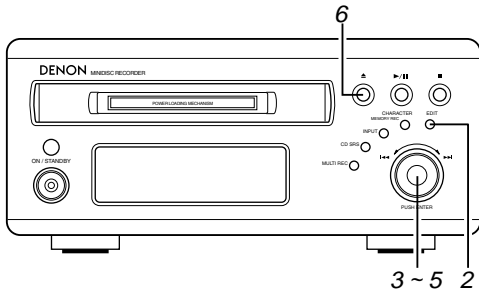
4	<p>停止中にエディットボタンを押します。 “Edit Mode”が表示されます。</p> <p>EDIT</p> <p>(本体) (リモコン)</p>
5	<p>本体のジョグダイヤルを回すか、リモコンのオートマッチサーチボタンを押して“ALL N. Erase?”を表示させます。</p> <p>PUSH ENTER PRESET</p> <p>(本体) (リモコン)</p>
6	<p>エンターボタンを押して、すべての曲名およびディスク名の消去を確定します。 “Complete”が表示されます。</p> <p>PUSH ENTER ENTER MEMORY</p> <p>(本体) (リモコン)</p>
7	<p>イジェクトボタンを押して、TOC情報をディスクへ書き込みます。 TOC情報を書き込み、ディスクを排出します。書き込みを始めたとき、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。 正しく記録されない場合があります。 TOC情報の書き込みは、次の操作でもおこなうことができます。 ・電源ボタンを押して電源をスタンバイ状態にする。 ・停止中にストップボタン(■)を押す。</p> <p>(本体)</p>
	<p>消去を止めるときは、操作6の前にストップボタンまたはクリアボタンを押してください。</p> <p>STOP CLEAR</p> <p>(本体) (リモコン)</p>

編集のしかた(つづき)

(4) 最後におこなった編集内容を取り消す

『^{アンドゥ}UNDO機能』

最後におこなった編集内容を取り消し、その前の内容に戻すことができます。
誤って編集をおこなったときに便利です。



最後におこなった編集操作に応じて、次のメッセージが表示されます。

- ・ 曲名やディスク名を入力・変更した場合
"Name Undo?"
- ・ 曲名、ディスク名、1曲、全曲、1曲中の一部分を消去した場合
"Erase Undo?"
- ・ 分割した場合
"Divide Undo?"
- ・ 結合した場合
"Combine Undo?"
- ・ 移動、プログラム移動した場合
"Move Undo?"

3

つづき

が表示されます。

編集操作をしていないときや編集操作をしていても『^{アンドゥ}UNDO』できないときは、"Undo?" は表示されません。

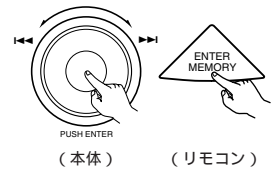
つぎのようなときは、『UNDO』できません。

- ・ TOC情報の書き替えをおこなったとき
- ・ 新たな録音や編集をおこなったとき
- ・ 停電したとき
- ・ ^{アンドゥ}UNDOをおこなったとき
- ・ 停止中以外にネームを入力したとき

エンターボタンを押します。

"Undo OK?" と確認のメッセージが表示されます。

4



エンターボタンを押して、編集内容の取り消しを確定します。

5

"Complete" が表示されます。

1

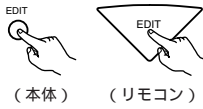
リモコンのファンクションボタンを押して、CDレシーバーのファンクションを『MD』にします。



(リモコン)

2

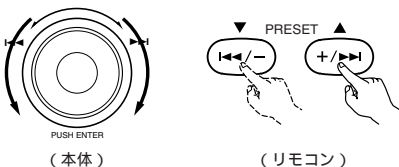
停止中にエディットボタンを押します。
"Edit Mode" が表示されます。



(本体) (リモコン)

3

本体のジョグダイヤルを回すか、リモコンのオートマチックサーチボタンを押して、"Undo?" を表示させます。



(本体) (リモコン)

イジェクトボタンを押して、TOC情報をディスクへ書き込みます。

TOC情報を書き込み、ディスクを排出します。書き込みをはじめると"TOC"表示が点滅しますので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。

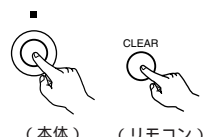
6

正しく記録されない場合があります。TOC情報の書き込みは、次の操作でもおこなうことができます。

- ・ 電源ボタンを押して電源をスタンバイ状態にする。
- ・ 停止中にストップボタン(■)を押す。

1つ前の状態に戻りたいときは、クリア

ボタンを押してください。編集内容の取り消しを止めるときは、操作6の前にストップボタンまたはクリアボタンを押してください。



(本体) (リモコン)

15 ピックレック機能について

ピックアップ機能は、本機をピックアップモードにすることにより、CDやチューナーなどで曲を聞きながら、曲の途中で録音操作をおこなえる機能です。
 ピックレック機能で録音できるのは、ピックアップモードにして、ピックアップをはじめたときからの内容です。曲の途中でピックアップモードにしたときは、その曲の先頭から録音することができません。

(1) ピックレックのはじめかた

録音のしかた（28～30ページ参照）により、あらかじめ本機の入力などを設定してから次の操作をおこなってください。

ピックアップインジケータ
 ・点灯：録音しない
 ・点滅：録音する

1	録音ボタンを続けて2回押します。 “Pick Rec”が表示されます。 ピックレックインジケータが点滅し、ピックアップ一時停止状態になります。	
2	ジョグダイヤルを回して録音レベルを調整します。 レベルメーターが“OVER”表示まで点灯しないように調整してください。 設定された録音レベルは記憶されますが、2、3日間通電していない状態が続くと、データが消去される場合があります。	
3	プレイ/ポーズボタンを押します。 ピックレックインジケータが点灯します。 約2秒後、ディスプレイにはピックアップ可能時間が表示されます。ここからピックアップモードになり、ピックアップ可能時間がなくなるまで、以下の操作が可能です。	
4	《ピックアップ中の曲番を録音したいとき》 その曲番の再生が終わるまでにエンターボタンを押します。 ピックレックインジケータが点滅し、その曲番を録音します。曲番が変わると、ピックアップインジケータが点灯に変わり、その曲番は録音されません。	

5 《ピックアップ中の曲番を録音しなくてもよいとき》
 何も操作しなければ、その曲番は録音されません。
 ピックレックインジケータが点灯している曲番は録音されません。

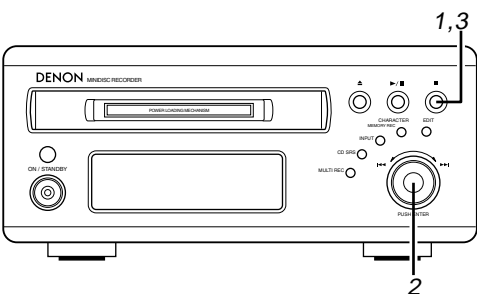
曲の途中で操作1がおこなわれたときは、その曲ははじめから録音することができません。
 アナログ入力やCDやMD以外の機器からのデジタル入力でのピックアップをおこなっている場合、曲の途中で曲番が変わる場合があります。録音したい曲番は、すべて操作4をおこなってください。
 操作4でエンターボタンを押した後、録音が必要なくなった場合は、その曲番の録音中にもう一度エンターボタンを押してください。ピックアップインジケータが点灯に変わり、録音を取り消します。

【ピックアップ可能時間について】

ピックアップをはじめてからのピックアップ可能時間は、録音用ディスクの録音可能時間になります。できるだけ長時間録音できるディスクを使用するとともに、ピックアップ中はディスプレイの可能時間表示を確認し、残り時間に注意してください。
 ピックレック可能時間がなくなったときには、自動的に停止します。この場合は「(2)ピックアップの止めかた」により、ディスクへの書き込みを完了させてください。
 またピックアップ可能時間が残っていても、ピックアップをはじめてからの曲番が35を超えると、ピックアップインジケータが、2回点滅表示になります。ピックアップインジケータが、この表示になった後は録音する/しないの選択ができませんので、一度ピックアップを止めて、ディスクへの書き込みを完了させて、再度ピックアップをはじめてください。

ピックアップ機能について(つづき)

(2) ピックレックの止めかた



1 ストップボタンを押します。
録音が停止し、ピックアップインジケータが消灯します。
“P. Rec OK?” が表示され、TOC情報の書き込みがおこなわれます。
また、ピックアップ可能時間がなくなったときには、自動的に停止し、“P. Rec OK?” が表示されます。

2 《録音する曲の選択がうまくいったとき》
エンターボタンを押します。
“P. Rec Edit” が表示されます。
ピックアップ中にエンターボタンを押して、『録音する』を選択した曲番のみをディスク内に整理します。
この表示の間は、別の操作をおこなわないでください。記録された内容が損なわれたり、正しく記録されない場合があります。
“P. Rec Edit” の表示が消灯すると、自動的にTOC情報の書き込みがおこなわれます。

3 《録音する曲の選択がうまくできなかったとき》
ストップボタンを押します。
“P. Rec Cancel” が表示されます。
ピックアップをはじめてから再生された曲番すべてがディスクに記録されます。

3

《録音する曲の選択がうまくできなかったとき》
ストップボタンを押します。
“P. Rec Cancel” が表示されます。
ピックアップをはじめてから再生された曲番すべてがディスクに記録されます。



ピックアップ中に本体の電源ボタン (ON/STANDBY) でスタンバイ状態にした場合は、ピックアップをはじめてから再生された曲すべてがディスクに記録されます。ピックアップをはじめてから数秒で止めた場合でも “P. Rec OK?” が表示されますが、1曲も録音されていないことがあります。

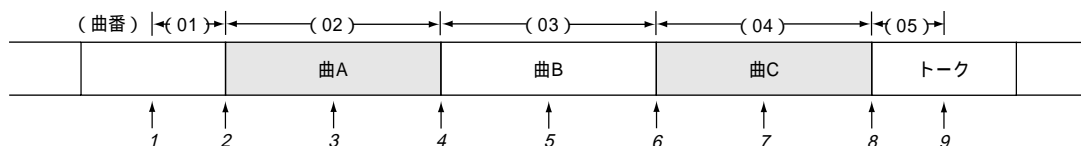
ご注意

録音終了後、TOC情報の書き込みをはじめると “TOC” 表示が点滅しますので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。録音や編集された内容が損なわれたり、正しく記録されないことがあります。

ピックアップ機能について(つづき)

(3) ピックレックの使用例

音楽番組をピックアップする例を説明します。(ブランクディスクを使用)



ご注意

アナログ入力の場合、左記の操作2、4、6、8で約3秒以上の無音部がないと自動的に曲番が変わりません。ピックアップ中に32ページの「(1)録音中に曲番をつけたいとき」の操作で、手動で曲番をつけて操作することもできます。うまく曲番がつけられなかった場合は、ピックアップ終了後、49ページの「(2)ピックアップの止めかた」の操作2で全曲を残し完了させてから、37ページの「曲を分割するには」、34ページの「1曲消去のしかた」を参照して分割と消去をおこなってください。

録音終了時および「P. Rec Edit」表示終了時は、自動的にTOC情報の書き込みをおこないます。書き込みをはじめると「TOC」表示が点滅しますので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。録音や編集された内容が損なわれたり、正しく記録されないことがあります。

1	48ページの操作1をおこなって、ピックアップをはじめます。(曲番：01) ピックアップインジケーターが点灯します。
2	曲番が変わります。(曲番：02) ピックアップインジケーターは点灯のままです。
3	《曲Aは録音したい!》 エンターボタンを押します。 ピックアップインジケーターが点滅表示になります。
4	曲番が変わります。(曲番：03) ピックアップインジケーターが点灯が変わります。
5	《曲Bは録音しなくてよい》 何も操作は不要です。 ピックアップインジケーターは点灯のままです。
6	曲番が変わります。(曲番：04) ピックアップインジケーターは点灯のままです。
7	《曲Cは録音したい!》 エンターボタンを押します。 ピックアップインジケーターが点滅表示になります。
8	曲番が変わります。(曲番：05) ピックアップインジケーターは点灯が変わります。
9	曲の放送が終了したので、49ページの操作1、2をおこなってピックアップを止めます。 ディスクには、曲Aと曲Cだけが録音されます。 曲番は曲Aが01、曲Cが02に編集されます。

16 システム機能について

(1) システム接続について

本機をUD-M30/M50とシステム接続をすると、便利なシステム機能が働きます。(接続のしかたは、UD-M30/M50の取扱説明書を参照してください。)

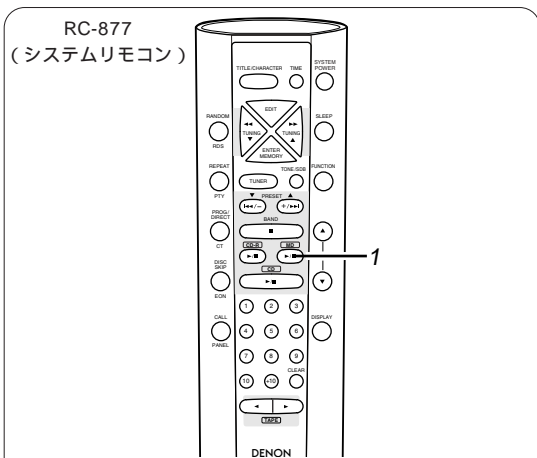
各機器を操作するシステム機能の信号は、すべてUD-M30/M50から出力されます。従って、システム接続するときは必ずUD-M30/M50を接続してください。

システム機能が働くのは、D-M30/M50シリーズの機器を接続したときのみです。それ以外の機器を接続してもシステム機能は働きません。

(2) オートパワーオン機能

(UD-M30/M50,本機,システムコード接続時)

本機の電源がオフの状態であっても、CDレシーバー(UD-M30/M50)がスタンバイ状態であれば、リモコンのMDプレイ/ポーズボタン(▶/||)を押すだけで本機とCDレシーバーの電源が入り、MDの再生をおこなうことができます。



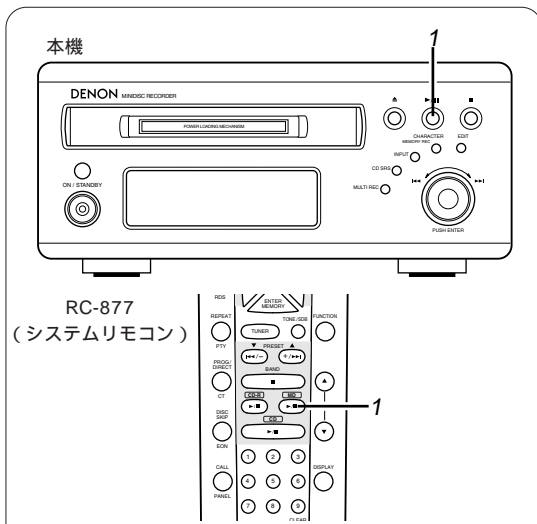
1 本機の電源がオフの状態でもCDレシーバーがスタンバイ状態のときに、リモコンのMDプレイ/ポーズボタンを押します。

本機とCDレシーバーの電源が入り、CDレシーバーのファンクションが自動的に『MD』に切り替わります。その後、本機にあらかじめ装着されているMDの再生をはじめます。

(3) オートファンクション機能

(UD-M30/M50,本機,システムコード接続時)

ボタン1つの操作でファンクションを『MD』に切り替えて、MDの再生をおこなうことができます。



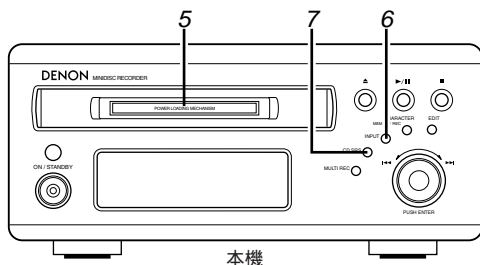
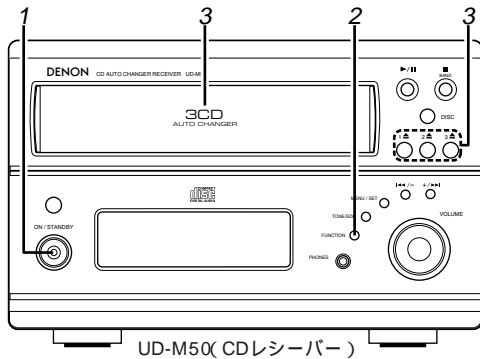
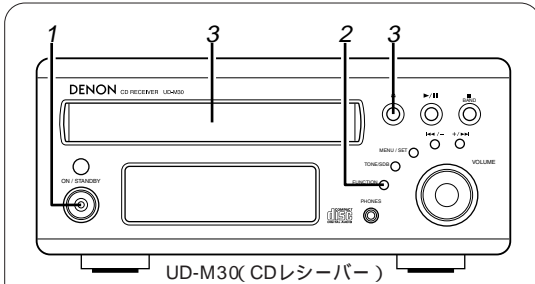
1 本機以外の機器(CDレシーバー、CDレコーダー、カセットデッキ)の再生中にMDプレイ/ポーズボタンを押します。

再生中の機器の再生が停止します。同時にCDレシーバーのファンクションが『MD』に切り替わり、MDの再生をはじめます。

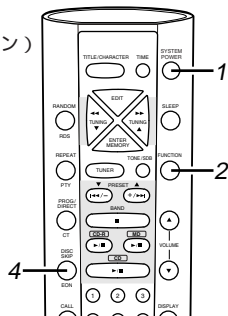
システム機能について(つづき)

(4) CDシンク口録音機能 (UD-M30またはUD-M50,本機,システムコード接続時)

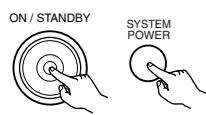
CDを簡単に録音することができます。
UD-M30/M50のデジタル出力を本機のデジタル
入力1に接続し、デジタル録音します。



RC-877
(システムリモコン)



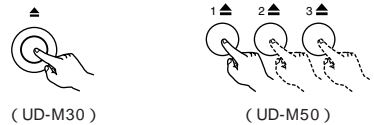
1 CDレシーバーの電源を入れます。
システムの電源が入ります。



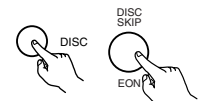
2 CDレシーバーのファンクションボタンを押して、ファンクションを『CD』にします。
(UD-M30/M50) (リモコン)



3 CDレシーバーのディスクホルダーに、録音したいCDを装着します。

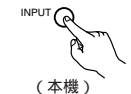


4 CDレシーバーのディスク選択ボタンを押して、ディスクを選択します。(UD-M30では不要です。)
(UD-M50) (リモコン)



5 本機のディスク挿入口に、録音するディスクを入れます。

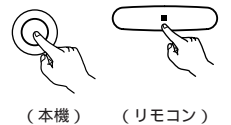
6 入力切り替えボタンを押して、『Opt-1:MD』に切り替えます。
(本機)



7 本機のCDシンク口録音ボタンを押します。
自動的にディスクの録音をはじめます。
CDに収録されているすべての曲の再生が終わったとき、およびCDの再生が終わらないうちにMD一杯に録音されたとき、本機とCDレシーバーは自動的に停止します。



途中で録音を止めるときは、本機またはCDレシーバーのストップボタンを押して、CDの再生を停止させてください。TOC情報の書き込みがおこなわれます。



ご注意

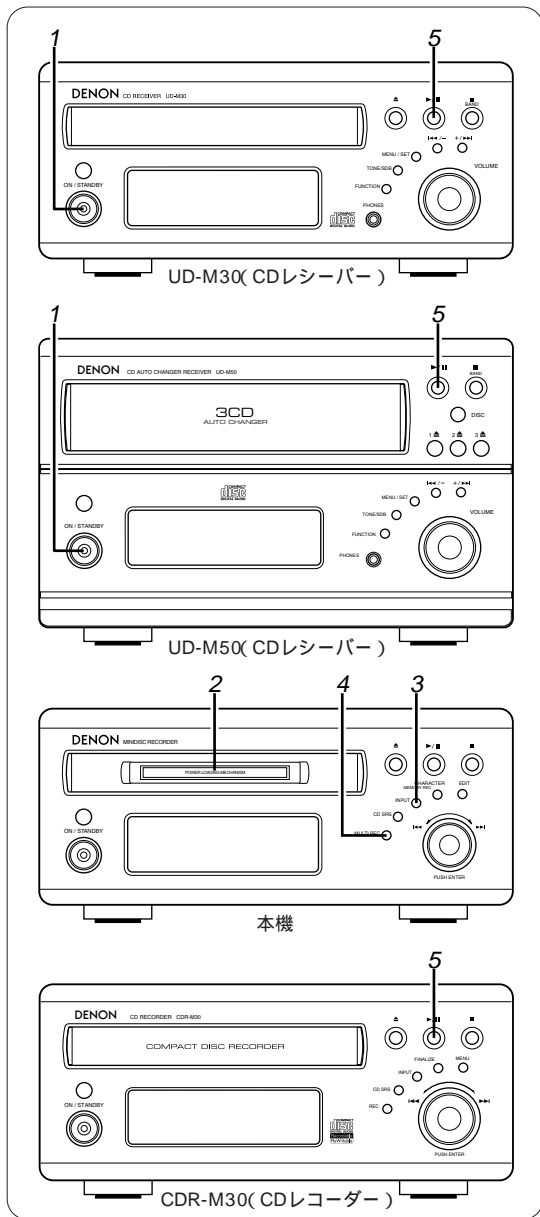
CDレシーバーがプログラム再生モードのときは動作しませんので、プログラムを解除してください。また、ランダム再生モード、リピート再生モードのときはそれぞれのモードを解除して動作します。録音終了後、TOC情報の書き込みをはじめると“**TOC**”表示が点滅しますので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。録音された内容が損なわれたり、正しく記録されないことがあります。編集をおこなった後、TOCの記録をおこなわないと“Write UTOC”が表示され録音モードには入れません。

システム機能について (つづき)

(5) 同期録音機能 (UD-M30またはUD-M50,本機,CDR-M30,DRR-M30,システムコード接続時)

本機を録音一時停止状態にして、CDレシーバー、CDレコーダーまたはカセットデッキのプレイ/ポーズボタン(▶/||)を押すと、自動的に録音をはじめます。

UD-M30またはUD-M50と組み合わせてCDを同期録音するときは、操作1の後、ファンクションを『CD』にします。詳しくはUD-M30またはUD-M50の取扱説明書を参照してください。



RC-877
(システムリモコン)

1	CDレシーバーの電源を入れます。 システムの電源が入ります。	 ON / STANDBY SYSTEM POWER (UD-M30/M50) (リモコン)
2	本機のディスク挿入口に、録音するディスクを入れます。	
3	本機の入力切り替えボタンを押して、録音したい機器が接続されている端子を選びます。	 INPUT (本機)
4	本機の録音ボタンを1回押して録音一時停止状態にします。	 MULTI REC (本機)

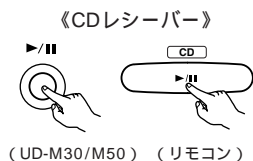
(次のページにつづきます)

システム機能について (つづき)

5

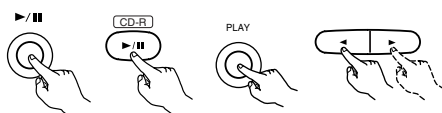
CDレシーバーまたはCDレコーダーのプレイ/ポーズボタン、またはカセットデッキのプレイボタンを押します。

自動的に録音をはじめます。



《CDレコーダー》

《カセットデッキ》



CDレシーバー、CDレコーダーまたはカセットデッキの再生が終わると、本機は自動的に録音一時停止状態になります。

途中で録音を止めるときは、CDレシーバー、CDレコーダーまたはカセットデッキのストップボタンを押して、ディスクまたはカセットテープの再生を停止させてください。本機は録音一時停止状態になります。

録音を止めるときは、本機のストップボタンを押してください。TOC情報の書き込みがおこなわれます。

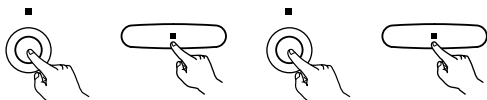
《CDレシーバー》

《CDレコーダー》



《カセットデッキ》

《MDレコーダー》



ご注意

録音終了後、TOC情報の書き込みをはじめると“**TOC**”表示が点滅しますので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。録音された内容が損なわれたり、正しく記録されないことがあります。編集をおこなった後、TOCの記録をおこなわないと“Write UTOC”が表示され録音モードには入れません。

システム機能について(つづき)

2 ラジオ放送を留守録するには

UD-M30(CDレシーバー)

UD-M50(CDレシーバー)

RC-877 (システムリモコン)

本機

1 CDレシーバーの電源を入れます。

2 本機のディスク挿入口に、タイマー録音するディスクを装着します。

3 本機の入力切り替えボタンを押して、『LINE1』に切り替えます。

4 CDレシーバーのメニュー/セットボタンを押して、『TIMER』を表示させます。タイマー予約モードになり、使用するタイマー動作を選択します。+/- ボタンを押すと、『ONCE』が表示され、ワンスタイマーが選択されます。

5 CDレシーバーのメニュー/セットボタンを押して、『FUNC』を表示させます。

6 CDレシーバーの - / + ボタンを押して、ファンクションを『TU>MD』にします。

7 以下の操作は、CDレシーバー (UD-M30またはUD-M50) に付属の取扱説明書の『エブリディタイマー/ワンスタイマーの予約のしかた』を参照してください。

ご注意

録音終了後、TOC情報の書き込みをはじめると“**TOC**”表示が点滅しますので、このとき本機に振動を与えたり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。録音された内容が損なわれたり、正しく記録されないことがあります。編集をおこなった後、TOCの記録をおこなわないと“Write UTOC”が表示され録音モードには入れません。

システム機能について (つづき)

(7) システム接続をしないで使用する場合

システム機能について

オートファンクション機能、CDシンクロ録音機能、同期録音機能、タイマー再生/録音機能などのシステム機能を使用することはできません。

オートレックポーズ機能について

本機をシステム接続をしないで使用した場合、ブランクディスク（録音されていないディスク）およびノートラックディスク（ディスク名のみ記録されたディスク）を入れると、自動的に録音一時停止状態になります。プレイ/ポーズボタン（▶/■）を押すだけで録音を開始することができます。これらのディスクが入っている状態で電源を入れた場合も、オートレックポーズ機能が働きます。

リモコンについて

システム接続をしないで本機をリモコン操作する場合には、別売りのリモコン（RC-267）をご購入ください。（19ページ参照）

17 ミニディスクの規格上の制約について

ミニディスクの規格は、カセットデッキなどの従来の録音方式と異なる方式でおこなわれます。そのため、いくつかの規格上の制約があります。次のような現象が出ても故障ではありませんので、ご了承ください。

(1) 曲数の制約

何も録音されていないディスクやディスク名のみだけで何も録音されていないディスクに1曲目から順次録音した場合は、最大255曲まで録音できます。しかし、編集を多く繰り返したりすると、255曲まで録音できなくなることがあります。

デジタル録音のとき、エンファシス情報などの入切が多いと曲の区切りと同じ扱い（曲番は変わらない）になり、録音時間や曲数に関わらず録音できなくなることがあります。

(2) 録音機能の制約

ディスクの最大録音時間に達しなくても、曲数が255になるとこれ以上録音できません。

録音は約2秒単位でおこなわれます。それに満たない部分でも約2秒間分のディスクスペースを使用しますので、実際に録音できる時間は短くなります。ディスクに傷があるとその部分は録音できませんので、その分の時間が減ります。

CDをデジタル録音するとき、CDの録音内容により数秒程度の無音部ができることがあり、曲数がCDと異なることがあります。

短い曲を消去してもディスクの残り時間が増えないことがあります。これはディスクの残り時間を表示するとき、12秒以下の部分を無視するためです。

(3) 編集機能の制約

編集をおこなってできた短い曲を結合できない場合があります。

録音や編集を繰り返したディスクでは、マニュアルサーチ中に音が途切れることがあります。

18 メッセージについて

本機をお使いになられているときの使用状況によりメッセージが表示されます。

《メッセージ表示》	《メッセージの内容》
TOC Reading	TOCを読み込んでいます。
Blank Disc	何も録音されていないディスクが入っています
Complete	編集が完了しました。
Copy Prohibit	SCMS (シリアル・コピー・マネージメント・システム) により、デジタルコピー禁止のソースです。
Dig. Unlock	デジタル録音時にデジタル入力端子の接続が不完全なため、または他の障害により入力信号が正常に入力されていません。(31ページ参照)
Disc Err () は数字や文字です。	ディスクに傷が付いているため、データが読めません。または、TOCがミニディスクに書き込まれていないか、データに異常があります。
Disc Full	ディスクの残り時間がなくなりました。 トラック数が255曲を超えてしまいました。
Impossible	実行できない操作をおこなっています。
No Name	タイトル文字が入力されていません。
No Track	ディスク名はありますが、曲が入っていません。
Playback Only	再生専用ディスクに録音や編集の操作をおこなっています。
Protected	ディスクが誤録音防止状態になっています。
Name Full	ディスク名/曲名が100文字を超えています。または、ディスク名および曲名として入力した文字の合計が約1700文字を超えています。
Tr. Protected	編集できない曲です。
Disc ?	データに異常があります。または、規格外のミニディスクです。
TOC Err () は数字や文字です。	ディスクに傷が付いているため、TOC情報が読めません。または、規格外のミニディスクです。
Can't Rec	ショックやディスクの傷で正しく録音できませんでした。
Temp Over	温度が高くなり過ぎました。電源を切り、本機の温度が下がるまでしばらくお待ちください。
Defect	ディスクに傷があるため、録音が途切れてしまいました。
Mech Err () は数字や文字です。	ミニディスクが正しく動作していません。
Not Audio	オーディオ用でないデータが記録されています。
UTOC W Err	ショックやディスクの傷でTOC情報が正しく作成できませんでした。
UTOC Err () は数字や文字です。	記録されているTOC情報がミニディスクの規格に合っていないか、他の障害により読むことができません。
Focus Err	ディスクに傷があります。または、振動の多い不安定な場所で使用しているため、正常な動作ができません。
MDLP Track	このTrはMD LPフォーマットなので再生できません。(DMD-M30のみ)
Write UTOC	編集をおこなったあとにUTOC書き込みがされていません。

19 故障かな？と思ったら

故障？ と思っても、もう一度確かめてみましょう

各接続は正しいですか
取扱説明書に従って正しく
操作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。なお、この表の各項にも該当しない場合は、本機の故障とも考えられますので、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜きとり、お買い上げ販売店または最寄りの当社営業所にご連絡ください。

現象	原因	処置	関連ページ
操作できない。	ディスクが入っていますか。 ディスクが損傷または汚れていませんか。	ディスクを入れてください。 他のディスクと取り替えてください。	23 —
再生できない。	接続が間違っていないですか。 ディスクに録音されていますか。 ("Blank Disc"または"No Track" が表示されます。)	接続を確認してください。 録音されているディスクと取り替えてください。	10~12 58
録音できない。	ディスクが録音防止状態になっていませんか。 ("Protected"が表示されます。)	ディスクの誤録音/誤消去防止ツメをずらして、孔を閉じた状態にしてください。	21、58
	ディスクに残り時間がありますか。 ("Disc Full"が表示されます。)	ディスクを取り替えてください。 不要な部分があれば消去して録音時間を確保してください。	58
	255曲収録されたディスクに録音しようとしていませんか。 ("Disc Full"が表示されます。)	ディスクを取り替えてください。 不要な部分があれば消去して録音時間を確保してください。	58
	デジタル録音したソースをデジタル録音しようとしていませんか。("Copy Prohibit"が表示されます。)	アナログ録音をしてください。	28、58
入力切り替えボタン (INPUT) の設定が違っていないですか。	録音入力モードを確認してください。 (Opt-1,2、LINE1,2)	28、30	
"Dig. Unlock"が表示される。	入力切り替えボタン (INPUT) の設定が違っていないですか。	録音入力モードを確認してください。 (Opt-1,2)	30
	デジタル入力端子の接続が間違っていないですか。	接続を確認してください。	10~12
	相手側機器の電源がOFFになっていませんか。	録音する場合は、相手側機器の電源を入れ、デジタル出力をONにしてください。	—
UD-M30/M50のファンクションが『CD』になっていませんか。	録音する場合は、UD-M30/M50のファンクションを『CD』にしてください。	—	

20 主な仕様

形 式	ミニディスク デジタル オーディオシステム
ワウ・フラッター	測定限界 (±0.001% W.peak) 以下
標 本 化 周 波 数	44.1kHz
録 音 方 式	磁界変調オーバーライト方式
光 源	半導体レーザー
電 源	AC 100V 50/60Hz
消 費 電 力	14W (電気用品取締法による)
最 大 外 形 寸 法	210 (幅) × 95 (高さ) × 318 (奥行き) mm (フット、つまみ、端子を含む)
質 量	2.8kg

仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。

本機は国内仕様です。

必ずAC100Vのコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。

AC100V以外の電源には絶対に接続しないでください。



ドルビーラボラトリーズライセンスコーポレーションの米国及び外国特許に基づく許諾製品。

あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。

なお、この商品の価格には、著作権法の定めにより、私的録音補償金が含まれております。

お問い合わせ先

(社) 私的録音補償金管理協会

TEL.03 (5353) 0336

21 長時間録音 (MDLP録音) について (DMD-M50のみ)

MDLP (MD LONG PLAY) フォーマット対応により、通常録音時間の2倍長または4倍長のステレオ録音ができます (MDLP録音)。

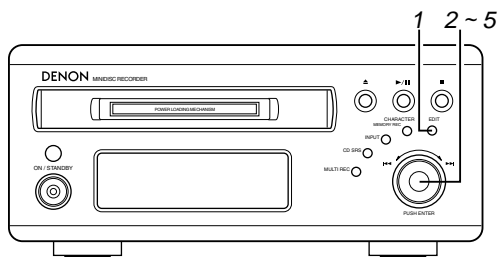
MDLP録音をおこなうには、本機を次のように設定してください。

ご注意


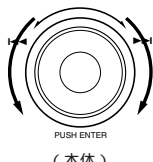
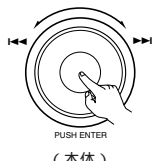
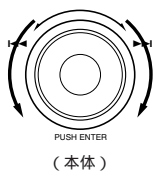
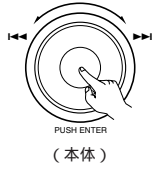
MDLP録音された曲は、DMD-M30または他のMDLP非対応機器で再生や編集をおこなうことはできません。MDLP録音された曲と通常録音された曲の結合や編集 (COMBINE) はできません。

録音中に録音モードを変えることはできません。

長時間録音 (MDLP録音) について (つづき)



1 MDLP録音モードの設定のしかた

1	<p>エディットボタンを押します。 “Edit Mode”が表示されます。</p>  <p>(本体)</p>
2	<p>ジョグダイヤルを回して、“MDLP?”を表示させます。</p>  <p>(本体)</p>
3	<p>エンターボタンを押します。 “MDLP 2/4/off”が表示されます。</p>  <p>(本体)</p>
4	<p>ジョグダイヤルを回して、設定したいモードを選択します。 LP2録音モード (録音時間が通常の2倍) を選択するときは “2” を、LP4録音モード (録音時間が通常の4倍) を選択するときは “4” を、通常録音をおこなうときには “off” をそれぞれ点滅させます。</p>  <p>(本体)</p>
5	<p>エンターボタンを押して、録音モードを確定します。 “MDLP 2 (4またはoff)”が表示されます。 MDLP録音モードを選択した場合、“LP 2 (または4)”が点灯します。</p>  <p>(本体)</p>

録音モードを設定した後は、アナログ/デジタル録音やCDシンクロ録音など、それぞれの録音と同様の操作で録音をおこないます。

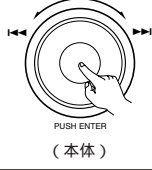
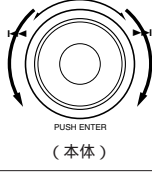
ご注意

録音モードは、録音が終了しても記憶されます。録音を開始する前に、必ず録音モードを確認してください。

2 LPスタンプのつけかた

MDLP録音時に曲名の最初に『LP:』をつけることができます。これによりMDLP非対応で再生しようとしたときに、『LP:』が表示され、MDLP録音した曲であることが分かります。

出荷時は『On』に設定されています。

1	<p>エディットボタンを押します。 “Edit Mode”が表示されます。</p>  <p>(本体)</p>
2	<p>ジョグダイヤルを回して “LP stamp?”を表示させます。</p>  <p>(本体)</p>
3	<p>エンターボタンを押します。 “Stamp On/Off”が表示されます。</p>  <p>(本体)</p>
4	<p>ジョグダイヤルを回してLPスタンプの“On”または“Off”を選択します。 選択されているモードが点滅します。</p>  <p>(本体)</p>
5	<p>エンターボタンを押してLPスタンプの“On”または“Off”を確定します。 “Stamp On (またはOff)”が表示されます。</p>  <p>(本体)</p>

ご注意

記録された『LP:』は、MDLP非対応機器で再生しようとしたときに、再生できないことを表示する確認用のスタンプです。再生可能なMDLP対応機器では表示されません。

『On』に設定すると、曲名として記録されるため、1枚のMDに入力できる文字数が少なくなります。また、DIVIDE機能を使って曲を分割すると、後ろの方の曲にも『LP:』が付きます。

MEMO

MEMO

日本コロムビア株式会社

本 社 〒107-8011 東京都港区赤坂4-14-14
TEL : (03) 3584-8111 (大代表)

後日のために記入しておいてください。

購 入 店 名 : 電 話 (- -)

ご購入年月日 : 年 月 日